

師範學校編纂
小學讀本 卷一
 明治七年八月改正 文部省刊行

凡例

- 一、本書は明治七年八月改正、師範學校編纂文部省刊行和装本四冊を原本として使用した。卷一は三十六枚、卷二、三は三十四枚、卷四は三十七枚である。
- 一、原本のさし絵は大小さまざまであるが、縮小してなるべく原本に近いところに入れた。
- 一、漢字は原本に近い当用漢字体又は旧漢字体を用い、変体の平かなはすべて現字体に改めた。

小學讀本第一

第一

凡地球上の人類は、五に分れたり、亞細亞人種、歐羅巴人種、馬來人種、亞米利加人種、亞弗利加人種、是なり、日本人は、亞細亞人種の中なり」



田中義廉 編輯
 那珂通高 校正

小學讀本 卷之一

人に、賢きものと、愚なるものとあるは、多く學ぶと、學ばざるとに、由りてなり、賢きものは、世に用ゐられて、愚なるものは、人に捨てらるゝこと、常の道なれば、幼稚のときより、能く學びて、賢きものとなり、必無用の人と、なることなかれ、幼稚のときは、先ッ日用付器の、名を記して、其用の方を、

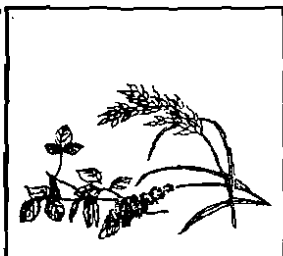
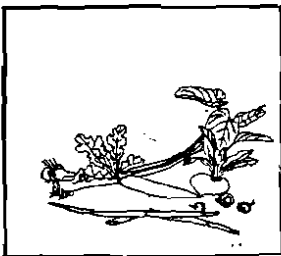
知るべし○筆は、字を寫し、又畫を寫す具なり、○算盤は、物を數ふる、用に供す、○文庫は書籍を納るゝ箱なり、○簞笥は、衣裳などを入るゝ器なり、又平生、食すべきものゝ、名を記し、これを調理して、食物となす法を、知るべし

○食物と、なすべきものに、種々あり、

第一は、穀物なり、○穀物とは、稻、麥、豆、粟、黍の類をいふ、○此等は、皆田畠に、作りて、其實を取り、或は炊き、或は炙りて、食物とするなり、

第二は、肉類なり、○肉類とは、魚鳥獸肉の類をいふ、○此等は、或は炙り、或は煮て、食物とするなり、

第三は、菓なり、○菓は、葡萄、梨、梅、桃、柿、橙、蜜柑の類をいふ、○此等は、多く、生にて、





今は、日中になりたり、○大陽の、照らす處は、甚熱し、然れども、樹の蔭は、較、涼しきゆゑに、臥したる牛と、立ちたる牛あり、○又一匹の牛は、熱きを、消せんが爲に、河に行きて、水を飲まんとす、○河の上に、橋あり、○人は日中になりたるゆゑ、皆

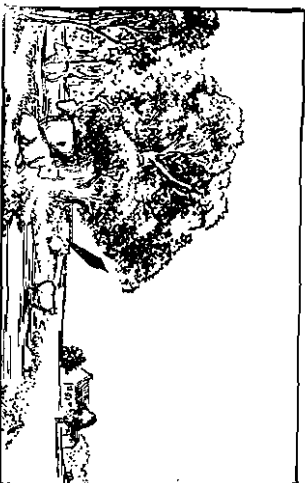
ことなし、
晴れたる、日には、必、野に出て、働くものと、知るべし、もし、晴天に、働かざれば、霖雨に、遇ふとき、耕すことを、得ずして、穀粟を、得ることなし、
○大陽は、籠の右に、あるべし、
此輩は、日の出の、景色なり、○今日は、晴れたる、天氣ゆゑに、啼く鳥は、木より木に、飛び遷る、○草は青として、葉に露を、帶たり、○數多の、農夫は、野に出て、或は畠を、耕し、或は草を、変れり、○農夫は、



り、○この果は、葡萄と、梨なり、○籠の、外に掛りたるは、葡萄の、蔓なり、○其影は、籠の左に、在り、然れば、大陽は、何れの方に、ありといふことを、知れりや、



神は常に、我を守るゆゑに、吾は、獨にて、暗夜に、歩行するをも、恐るゝことなし○又、眠りたるときに、も、神の、守りあるゆゑに、暗き所も、恐るゝことなし、○神は、暗き所も、明に、見るものゆゑ、人の知らざる所と、思ひて假にも、惡しきことを、なせば、忽、罰を、蒙る



晝飯を、食する爲に、家に歸れり、
日暮に、なりたり、○人は、野より、歸り來り、牛は、庭にあり、○一人の女は、庭に出でて、牛の乳を、擠り、桶に、満たしめて、これを、牛酪に、製せんとす、○此時、男子は、晝間、変りたる草を、積み、又干し置ける、穀を、收めんが爲に、極めて、忙し、今日もし務を、果さざるるとき、は明日の業に、妨あるがゆゑなり、

第六



此人等は、小舟に乗り、網を以て、魚を捕り、海濱に歸れるなり、○網を、海上に、引きて魚を、捕るときは、鱗あるも、鱗なきも、大なるも、小なるも、同じく、其中に、入らざるものなし、○汝は、此處に居る、三人の男を見たりや、○又彼等の、捕へたる、數多の魚を見ずや、○

たるも、神の賜なり、かく夜明くる毎に、日光を、給ふによりて、父母の、慈なき、顔を見ることを、得るも、皆其恩なりと、謝すべし、○さて其後に、吾を、導きて、幸を與へ、必過無からしめすことを、祈るべし、



れるか、○此木の、年を經たる、數を、知らんことを欲せば、横に、切りて、木理の輪を、數へ見るべし○木理の輪は、年毎に、一つの外は、生ぜざるものなれば、輪の數にて、其經たる、年の數を、知らんなり、○木理の輪は、大概、木の心より、増すものなれども、希には、外面より、増すものもあり、
汝等、毎朝、早く起き
て、神を拜し、先づ今
朝まで、無難に、過ぎ

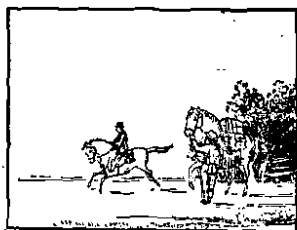
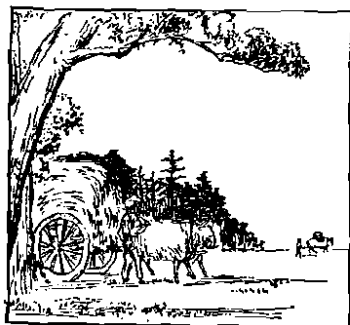


に滿ちたるときは、我が家に、持ち歸るなり、
此地を、何如なる處と、思ふぞ、○花園なり、○此處に、數多の、美しき、花あり、○左の手に、敏を持ち、右の手
に、噴を持ちたる、小兒あり、小
兒の、後に、杖を持ちたる、娘あ
り、○汝は、此園を、此小兒と、
娘との爲に、設けたる所なりと思
ふか、○又この小兒等を喜びて遊
ぶと、思ふか○一人の娘は、瓜
を、入れたる籠を持ちてり、○汝
は、花園に、遊ぶとき、漫に、花
を、折り、又果を、取るべからず、
爰に、果を、摘み入れたる、籠あ



海中の、魚は、其種類、多く
して、大なるものと、小なる
ものと、良きものと、良から
ぬものとあり、○一人の男
は、小にして、良からざる、
魚を、ば、取りて、海中へ、投
げ入れたる、○一人は、大な
る、魚を、籠に、入るゝ所な
り、○入れたる、魚の、此籠

馬は、實用に、適すべき、畜類なり、陸地に於て、荷物を、運ぶに、馬無くては、不便なり、○馬は、畜類の、大なるものにて、顔、長く、鬣あり、○背の上に、荷を負ひて、遠きに、輸るもあり、人を載せて、速に、走るもあり、又車を引くもあるなり、牛も、馬と同じく、實用に便なる、畜類にして、能く車を引き、又は、荷を負ひて、遠きに、輸るものなり、○されども、牛は、人を乗せて、走ること能はず、○牛の肉は、食物となりて、能く滋養をなし、又牝牛よりは、乳汁を、搾り取ることとを、得るなり、」



其次なり、
愛に、白き、單衣と、紺色の、單衣あり、○汝は、何れを、暖なりと思ふや、○白き色は、太陽の熱を、引くと、少きゆゑに、夏は、涼しと雖、冬は、寒し、○紺色は、太陽の熱、通ひ易きゆゑに、冬は、暖なりと雖、夏は、暑し、○人々、夏は多く、白衣を着、冬は多く、紺色の衣を着、着るは、この理によりてなり、

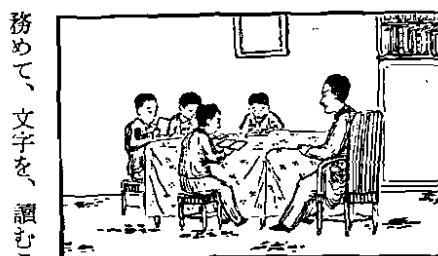


愛に、二枚の圖あり、皆人の、働く狀を、畫けり、○初の圖は、田に下だりて、秧を、植るところなり、○この人は、肘も、脛も、露はせり、これ働くに、

ときは、幾箇の、林檎を、得たりと、思ふや、○十六の、林檎なり。○然り、汝等は、物を、數ふことを、學ぶべし、○大なる數と、小き數とを、知るべし、○汝は、石盤、又は、紙に、數字を、書得るか、○もし數字を、書得ずは、務めて、これを、書くことを、學ぶべし、○物の數を、知らざるは、愚人なり、盆の上に、十一の、梨あり、



なり、○人の、知らざることをも、神は、能く知るゆゑに、善きものには、幸を、與へ、惡しきものには、禍を、與ふるなり、
第七
汝は、物を、數へ得るか、○父もし、汝に、十一の、林檎を、與へて、母も、また五の、林檎を、與へたる



務めて、文字を、讀むことを、學ぶべし、」
汝等は、文字を、讀み得るか、○文字を讀むことを、知らざれば、人より、暗りたる、書狀をも、讀むこと能はず、○又書籍を、讀み得ざるときは、事を知ること能はず、○事を、知らざる人は、縦才ありと雖、用には、適せざるなり○ゆゑに、文字を、讀むことを、知らざる者を、同じく、愚人といふなり、○されば、汝等は、

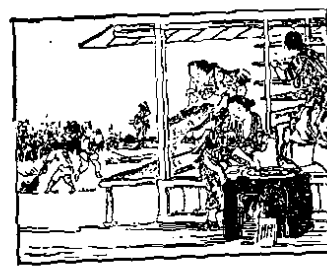


この中、母は、三持ち去れり、然らば、残りたる、梨子は、幾箇となれりや、○残りたるは、八つなり、汝等は、文字を、書き得るときは、書狀を、人に、贈ること能はず、○このゆゑに、汝等は、文字を、書くことを學ぶべし、

便なるがゆゑなり、



物を、得ることなし、○汝等、穀物を、食する毎に、農夫の、苦勞を想ひ、粒々、皆辛苦より、出でたるを、知りて、其業を怠るべからず、



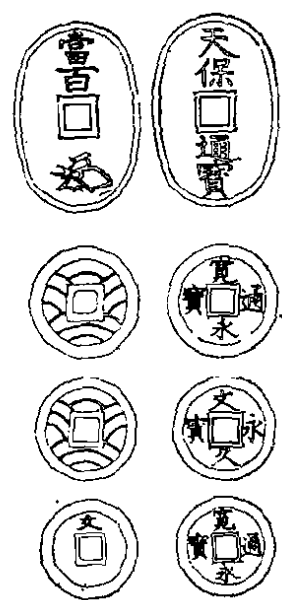
これは、蠶を養ひ、絲を繅る所なり、○數多の女、皆朝早く起き、夜中までも、眠らずして、髪も結はず、日々息ふ間なく、働けり、○又二人の男あり、桑を採る所なり、○此男は、野に出で、耕す人と、同じく、肘も腫も、露はに、力を盡して、働けり、○此の如く、數多の、

次の圖は、稻を刈りて、我家に、持ち歸る所なり○又稻を將きて、米を取る所を見

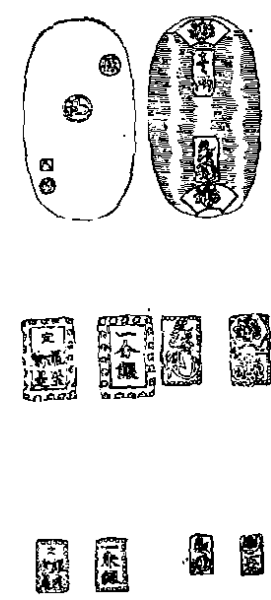
るべし、○此人々の、衣は、汗に濡ひて、乾くときなし、○農夫は、此の如く、働かざれば、穀

男女の、苦勞して、製するに、非ざれば、糸も生ぜず、絹も得ること能はず、○汝等、暖なる、衣を、著たるときには、必蠶を養ひ、絲を取る人々の、苦勞を、忘るべからず、

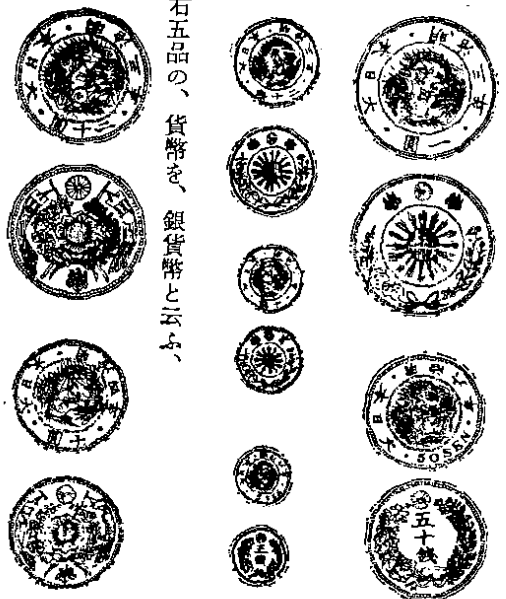
爰に、種々の、貨幣あり、



右四品の、貨幣を、錢といふ、幕府、政を執れるときより、今日までも、通用するもの、是なり、



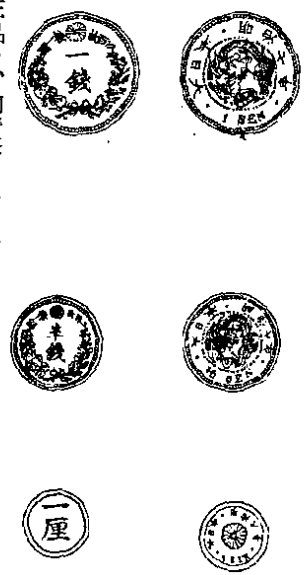
此五品の、貨幣を、金といふ、幕府、政を執れるとき、通用せしものなり、



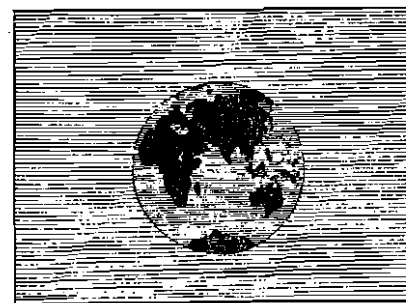
右五品の、貨幣を、銀貨幣と云ふ、



右三品の、銅貨幣と云ふ、此三種の、貨幣は、朝廷の、發行にて、當今の、通用なり、小銅錢、一箇を、一厘といひ、十厘を、一錢といひ、百錢を、一圓といふ、故に、十二錢半は、金貳朱に當たり、二十五錢は、一分に當たり、五十錢は、二分に當たるなり



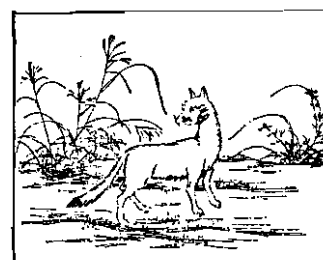
我等の、住居する世界は、平なるものにあらす、實は圓くして、球の如きものなり、故に世界を、地球といふ○此世界は、靜なるやうに、覺ゆれども、實は動くものにて、毎日一廻づゝ、旋りて一年には、太陽の周りを、一旋りするものなり○太陽は、圓きものにて、世界に光と、熱とを與ふるものなり○我等、晝は太陽を見れども、夜は、見ることをなし○汝、夜の、太陽を見ることを得ざるは、何ゆゑなるを知れりや○夜は、太陽の方に、向はざるゆゑに、見ることを得ざるなり○月も、亦圓きものなれども、太陽、及地球の如くに、大ならず○月は、原より、光なきものなれども、太陽の光を、受けて、始めて輝くものなり」



我等一同に、草刈場に、出来れり○小兒は、刈りたる草の上に、坐し居て、草を刈るを觀る○枯草は、柔なる物なれば、此上は、遊び戯るゝに、宜しきなり○草は、牛馬の食なり、ゆゑに、牛馬を蓄ふ家にては、夏の間に、刈りて、

これを貯ふ」

狐は、犬に似たる獸にして、頭平に、鼻と耳とは、尖りて、尾は甚長し○此獸は、穴の中に住し、晝は隠れて、出でず夜に入れば、穴より出でて、田畠の傍を、遊行す○狐は、食を貪る獸にして、多く雞の雛を食ひ、又好みて、桑の實、櫻の實等を食ふ○雞を捕ふれば、穴に持ち行き



て、これを食ふ○もし、犬を見るときは、穴の中に、逃げ入りて、出づることなし、是は、穴に入らざれば、直に、犬に噛み殺さるゝが故なり」
蝸牛という蟲は、足なきゆゑに、歩むこと能はず、只匍匐するのみなり



この蟲は、背の上に、殻ありて、物に恐るゝときは、其中に縮み入る○蝸牛の、動くときは、四本の角を出だす、其中、二本の長き角の先きに、目あり、短き角の下に、口あり○此蟲は、冬は、土の中に伏し、春の至るを待ちて、出



づるなり」

汝は、此處に、男兒と、女兒と、驢馬の在るを、見たりや○男兒は、驢馬に乗らんとす○何如に、汝は、乗り易かるべしと、思ふか○驢馬は、小さき馬なれども、小兒には、乗り難かるべし○道の向ひに、荷車あり



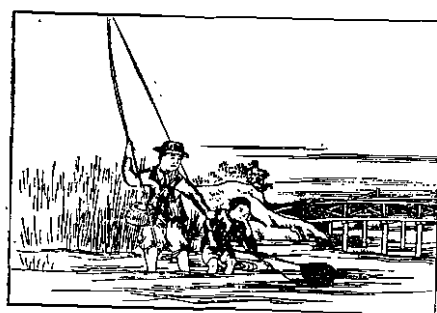
○汝は、此荷車を、何なりと思ふや○遠き處ゆゑ、儲に見分けること、能はざれども、畠の小路に、あるを見れば、穀物を載せたる、車なるべし」
此圖に、画きたるものは、何なりや○大人と、小兒と、二人水中に立てり○此等は、何をなすや○此人々は、魚を漁するなり、大人の釣りたる魚は、大なるゆゑに、強く曳かば、糸の切れんことを、恐れて、遽に、曳き擧げざるなり○男兒の、持ちたるものは、何なりと思ふや○それは、網の類にて、たまといふものなり○男兒は、此網を以て、魚を捕へんとす○大人の脇に、懸けたるは、何なるぞ○これは、蓋のある籠にて、其中に、魚を入るゝなり○此人の、立ちたる處は、深しと思ふか○人の、

膝まで、水に入らざるを、

見れば、甚深からず、もし、深水なれば、二人とも、立つこと、能はざるべし○此河に、架したる橋あり、汝は、此橋は、何にて造りたると思ふぞ○橋には、木と、石と、鐵との別はあれども、これは、木にて造りたる橋なり、

汝は、此男兒を、何歳計なりと、思ふや○此男兒は、

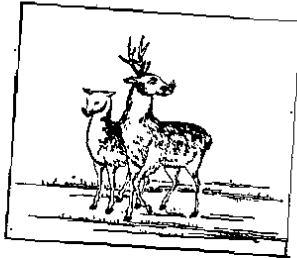
十歳以上なり○此男兒は、善き人なりと、思ふか○否、學問をもせず、又遊歩ともなさずして、休みをるゆゑに、怠りものと、知らるゝなり○此男兒は、何に倚りて、何を見るや、○此男兒の、倚りたるものは、大なる石の柱なり、又此男兒は、何をも見ず、只天をながむるなり○總て、小兒には、勉むべき時もあり、



蠶豆は、莢の中に在りて、梨、李、橙は、肉の中に在り○種子の、食物となるものは、稻、麥、豆、黍粟の類なり、肉の、食物となるものは、海、桃、梨、李、蜜柑の類なり草木は、皆種子より生ず、濕ひたる土の中に、種子を置くとときは、漸に膨脹して、遂に破裂し、其所より、芽と、根とを生ずるなり」鹿は、山林に、住する獸なり、この獸の牡には、枝を生じたる角あり、牝には、角なし、其色は、茶褐色にして、白き斑あり鹿は、長き足ありて、走ること、甚速なり○常に、草木の葉を、食と



かせども、人の如く、言ふこと能はず」汝は、實の草木の、種類を知れりや○其莢を見て、豌豆と、蠶豆とを知り、穂の形を見て、稻と、麥とを知るべし草木には、皆種子あり、豌豆、



し、或は、田野に來りて、穀物を、食することあり、此獸の角は、堅くして、器に造るべく、又其皮は、席となすべし」此男兒は、惡しき心のものなり、汝は、この男兒の、持てる、櫛の中に、ある物を、見たるか○これは、柿の實なり○此柿の實は、垣を踰えて、隣家より、盗み取れるなり○今此男兒、柿の實を、盗み取り、垣を踰えて、出でんとする所を、數多の犬ども、これを見て、男兒を追ひかけ、一匹の犬、男兒の裾を咬へたり、よりて、男兒は、垣を踰え去ることを得ず、此時、盗みたる柿の實を、捨てな裾を放つべけれども、此男兒は、犬は、兒は、これを捨つること能はず○他人の物を盗むは、決して、為まじきしとなり、善き小兒は、自分の物に、あらざれば、取ることなし○常に、(行狀の、正しきものは、幸多く、正しからざるものは、幸を得ること、能はざれば、汝等、他人のものを見て、何如なるものなりとも、必これを、得んことを、欲することなかれ」爰に、四箇の雞と、穀倉とあり○汝が、見る所には、これのみなりや、○否、家の後に、松あり、垣に、寄せて、立



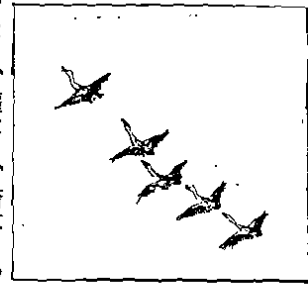
第三

雁の、列をなして、行く圖あり○見るべし、一羽の雁、導をなせば、其他の雁は、これに隨ひて、飛行くを○是は、

遊ぶべき時もあり○此小兒の如く、常に勉強をなさざるときは、成長の後、人に勝ることを得ざるなり」爰に、又、怠惰の小兒あり○彼は、學校へ行くと云ひしが、何ゆゑに、學校へは行かずして、途中に遊び居るや○未だ學校へ、行くべき時刻、來らずや○學校にては、既に稽古始まりたれば、此小兒も、とく行くべき時刻なり○然らば、何ゆゑ、爰に止まり居るや○彼は、犬に乗り、又他の怠りものと、遊ばんと、思へばなり○彼は、學校に行くものならば、其書をば、何處に置きたるや。書をば、自分の家に、忘れたるなり○されば、學校に行きたりとも、稽古することを得ず○善き小兒は、書を、大切になして、學校に行くを好み、稽古の時間來れば、決して、途中にて、遊び居ることなく、學校にても、能く勉強して、學ぶゆゑに、其等級、屢進むなり」



何處に行くや○或は、水邊に行きて、葦の間に息み、或は田に下りて、食物を求めんとするなり、此鳥は、冬は北より南に來り、春に至れば、又南より北に歸る、故に夏は此地に居ることなし」地に生ひ出づる物に、草と、木とありて、木に、灌木と、喬木とあり○草は、其幹葉、一年限りにて、枯るゝものなり、灌木は、高サ一丈に出でずと雖、其幹は、枯れざるものなり○喬木とは、成長して、高大に至るものを云ふ○此三の者を合せて、植物と云ふ、植物は、生を保ちて、能く成長し、又死しては、枯朽るものなれども、人の如くに、物を思はず、根は、食物を、地下より吸ひ、葉は、能く呼吸すれども、鳥獸の如く、動くことなし」鳥は、二つの足と、二つの翼ありて、多くは、空中に翔る、又水上に住むものもあり○獸類は、四足にして、膚に、長き毛あり○此鳥と獸とは、身體を、意に従ひて、動





を、見ることを得て、何か許りか、喜ばしからん、また、彼男も、父母の恙なき、顔を見れば、定めて、大に喜ぶべし。彼船は、堅固なる船にて、風雨に逢ふとも、破損なく、無難に、歸り来れば、船中の人々は、皆此船を、忝く思ふなるべし。人々の、外國に行くは、學問、或は、貿易をなして、我國の、利益をなさんことを、欲するがゆゑなり」

總て鳥は、嘴の長きものと、短きものとあり。此嘴にて、食物を啄む。鳥には、穀物を、食するものと、魚、又は、蟲を食するものとあり。鳥の目は、面の両側にあるゆゑ、一時に、両方を見ることを、得るなり。林中に遊ぶ鳥を、林禽といひ、水上に遊ぶ鳥を、水禽といふ。鳥の足には、四指ありて、三指は、前、一指は、後にあり、然れども啄木鳥類は前後、各二指ありて、能く大木に上下し、樹皮の中に、住む蟲を、搜し食す」



此人は、驚きたる風情あり、是は、何故なりや、○何故なることを知らず、○此人は、久しき以前に、遠方に行きて、今、我郷に、歸り来れるに、昔住みたりし家の變りたるを、見て、驚けるなり、さて此家の、斯く變りたる所以を、話し聞かすべし、此人の、家を出でたる後、近隣に、一人の小兒ありしが、此小兒は、至りて惡しきものにて、ある日、戯に、紙を燒きて、遊べるに、其火、忽家の障子に燃えつき、終に此家まで、燒け失せたり。○されば、今此人、我家に歸り來りても、未だ妻子の行きたる所をも、知ること能はず、ゆゑに悲しみ歎くなり、



今此人の家の、燒けたる時の狀を、圖して示さん。○火と、烟との、家の窓より、吹出づる所を見よ、○又、家に懸けたる、梯子あり。○梯子に上りて、火を消さんとする人あり。○多くの人は、唧筒にて、頻に、水を注げり、然れども、火猶消えずして、家終に、燒け落ちたるゆゑ、この家の人々は、皆逃げ去れるなり。されば、小兒は、火を弄ぶべからず、一度過つ時は、家をも、倉をも失ひ、甚しきに至りては、其身をも、失ふこと



てたる筈あり、雞の飲水を、入れたる、水鉢あり。○汝は、此鉢に、水ありと思ふや。○必水あるなるべし、○何を以て、水のあるを知れる。○此鉢は、少し傾きて、一邊の縁、高く出でたるを以て、水のあるを知れり、水は、傾きたる鉢の中にも、決して、斜に傾くことなく、其表面は、必、一様に、平なるものなり。○汝は雞の、水を飲むを、見しや、雞は、牛馬の如く、首を下げて、飲むこと能はず、ゆゑに一滴口に入れば、首を擧げて、咽に、飲み下すなり」

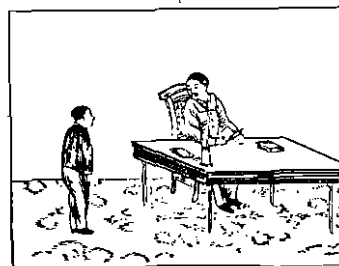


此處は、何如なる所なりや。○此處は、穀倉の傍なるべし、雞は、巢に、上らんとし、梯子を、傳ひ行くなり、○梯子に、横木あり、これは何なりや、此横木は、梯子の級なり、汝は、雞の巢を、見たるか。○巢は、隠れて、檐の裏にあるゆゑ、見ることを得ず」

汝、此處に來れ、汝、昨日、失ひたる所の、書尋を、尋ね得たりや。○否、未だ尋ね得ず。○汝は、文庫の中を、搜し見

第四

岸の上に、二人の少年ありて、三艘の船の、岸に着くを、見居れり。○三艘共に、帆を、十分に張りて、櫓の上に、旗を揚げたる、船なり。一人の少年云ふ、我が朋友は、去年、先きの船に乗りて、外國に、往きたりしが、日を數ふれば、其出立せし日より、今日まで、殆一年に及びて、歸り来れり。彼の両親は、日々、彼の歸るを待てり。○今日、無事なる顔

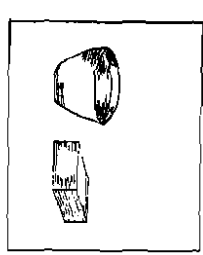


らざれば、大に衰りて、善き種
ども、自生長し、これを抜き去
これに反して、種子を時かされ
生長すること能はず、雜草は、
なるときは、能く培養せざれば、
こと能はず、又、芽既に萌出で
植物を生じ、美しき花を、開く
善き種子を、時かざれば、とき
地は、もとよきものなれども、
て、これを示さん



第五
今、花園に、善き種子を、蒔きて、善き植物を、生ぜし
め、美しき花を、開かしめんとするに、園中に、蔓れる雜
草を、抜き取らざるときは、時きたる種子を、害して、生
長すること、能はざらしか
今、此處に、花園、雜草を、抜き去る圖を、出だして以
て、これを示さん
為さんことを、志して、他人の力を、頼むべからず
親鳥の言、實に理あり、他人に依りて、事を成さんとする
者は、恐るゝに足らざれども、自為さんと決する時は、
須臾も、猶豫せざるべければなり、されば、人々、皆、自
日を延ばすべからずと、いへりとぞ、
親鳥の言、實に理あり、他人に依りて、事を成さんとする
者は、恐るゝに足らざれども、自為さんと決する時は、
須臾も、猶豫せざるべければなり、されば、人々、皆、自
為さんことを、志して、他人の力を、頼むべからず

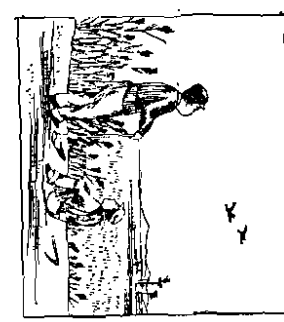
物を害し、終にこれを、枯らし盡すに、至るべし
人の心は、もと、善きものなれども、善き教を、聞きて、
これに従はざれば、善き人と、成り難し、教師の教は、
即、我心に、種子を蒔くに同じ、故に、心を用ゐて、これ
を、育ひ、能く成長せしむべし、然れども、不正の心の、生
じ易きこと、雜草の如くなれば、心に蒔きたる、善き種子
を、害すべきものは、地めて、これを抜き去らずは、ある
べからず、もし、これを抜き去ることを、怠りて、成長せ
しむるときは、終には、中に萌せる、良心を害して、これ
を、枯らし盡すに、至るべし、
汝等、善き人と、ならんことを欲せば、此人の、雜草を、抜
き去るが如く、効めて、不正の心を、抜き去るべし
愛に、圓き器と、四角なる器とに、入れたる水あり、もと
水は、同じけれども、其器の形に由りて、或、圓く、或四
角なる、形となれり
人も、小兒の時は、此水の如し、善き
友に交りて、善きことを、見聞けば、
善き人となり、又、惡しき友に、交り
て、惡しきことの、みを、見聞けば、惡
しき人となるなり
家の内外に、數多の小兒ありて、其遊
ぶわざの、各異なるを見るべし、家の内なる小兒は、日々



と、あるものなり
此圖に、画きたるは、柔和なる牛
にして、此小兒に隨ひ、徐に歩め
り、此小兒は、今牧場に、牛を、曳
き行く所なり○此小兒は、何ゆゑ
に、歩みながら、書を讀むや、此
小兒は、其性極めて賢く、常に、
學問することを好めども、家貧し
きゆゑに、學校に入ること能はず
して、日々、牧場に行くなり、然れ
ども、學問の志、深きに因りて
道を行く間も、書を讀むなり、又牧
場に至りても、休む間には、書を見ざる
ことなし、○此の如き小兒は、他日、
必人にまさりて、賢き人となるべし、
惡しき小兒は、日々、學校に行くと
雖、能く勉強せずして、遊ぶことの
みを、好むゆゑ、後には、愚なる者と
なりて、貧賤に、其身を終るべし
雲雀、鳥を、麥畠の間に、造りて、雛を育てたり、○麥
は、已に熟して、刈るべき時に至りたるに、雛は、未だ自
中に、飛ぶこと能はず、一日、親鳥、食を求めんとて、飛

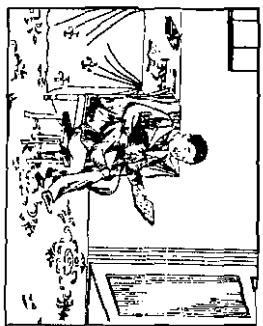


び去り、暮に及びて、歸り来れば、雖告げて今日、此畠主
なる農夫、其子と共に来りて、明日は、近隣の人を雇ひ
て、此麥を、刈り取らんとて、歸れりと云ふ、親鳥聞きて、
彼、近隣の人を、雇はんとすれば、未だ急には、刈取るべ
からず、明日は、此處にありと
も、恐るゝに足らずといひ、其
翌日も、亦食を求めんとて、飛
び去りたり
かくて、日の暮るゝに、親鳥歸
り来れば、繼又告げて、今日
も、農夫、其子と共に来りし
が、近隣の人、同じく、己が
作りたる、麥を刈るに、暇あら
ざれば、明日は、朋友、親族を頼みて、刈り取らんとて、
歸れりと云ふ、親鳥は、彼、尚他人を頼むの、心あらば、
明日も、憂ふるに足らずと、云へり
さて其翌日親鳥例の如く、飛去りて、歸り来るに、雛の云
ふ、今日は、農夫父子来りて、かく麥の熟せるを、最
早、他人の力を、待つに暇あらず、明日は、白刈り取るべ
しとて、歸れりと云へり
親鳥は、これを聞きて、然らば我等も、疾く此處を、立ち
去るべし、農夫が、白刈り取らんと、決したるを、必



今、此二人の、書籍を買ふは、何の爲なりや、家に歸りて、これを理會し己の智識を増さんとすればなり、書なければ、智識を増しこと能はず智識無きときは、國の利益を、興すこと能はず、故に、志ある者は、有用の書を、金を惜まずして、これを購ふなり」

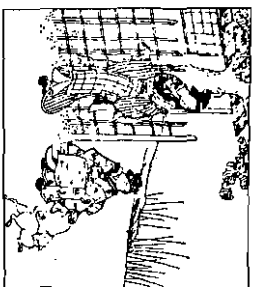
此圖の男は、手に持てる、書を讀みて、其義を、小兒に語り聞かしむる、所なり○汝、この小兒は、能く心を用ゐて、其話を、聞くとと思ふか○此小兒は、心を用ゐて、其話を聞くと、見えて、此男の、語ることを、深く考ふるさまなり、思ふに、今聞く所は、此書の中の、尤大切なる、簡條なるべし○凡て、教を人に受る者は、決して、倦怠の心を、生ずべからず、倦怠の心を、生ずるときは、直に、其顔色に見はるるゆるに、教ふる者も、亦これを知りて、懇に、教訓することなし、されば、教を受る者は、皆此小兒の如く、心を用ゐて、其話を、能く考ふべきことなり」



汝は、猫の兒を、愛するか、又、大の兒を、愛するか○我は、猫の兒を、愛する時は、小兒の如く、遊び戯るゝことを、好むも、如く、遊び戯るゝことを、好むものなり、中にも、猫の兒は、繩、又は轡を弄びて、能く戯れ遊ぶなり○然れども、獸類も、年老ゆれば、遊び戯るゝことを、好まず、人にして、年長けたる後まで、遊び戯るゝは、耻づべきことにあらずや、○されば、老たる猫は、其兒の、戯れ遊ぶを、見ることを、好めども、其身に、觸るゝことをば、喜ばざるなり、○老人も、小兒の遊ぶを、見ることを、好めども、其身に、觸るゝことをば、喜ばざるものゆゑ、小兒は遊び戯るゝとも、老人の身に、觸れ、又は、其椅子、机などには、決して、手を着くべからず」

此小兒は、學校にて、善き生徒なり○汝は、此小兒の、學校にて、書を讀むを、聞きたりや○此頃始めて、これを聞きたり、

此小兒は、何の書を、讀めるや○彼は、小學讀本を、讀めり○其讀む所の、小學讀本は、何の書なりや○彼は、卷の三を讀めり、我は、この小兒の如く、能く書を讀むも

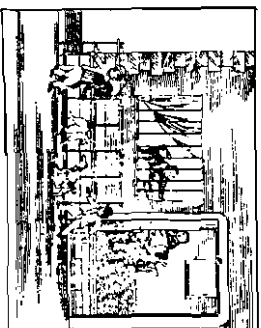


學校にて、學びたる所を、家に歸りて、其友と、互に問答して、これを樂とす、此等は、他日、必賢き人と、なるべし、又、外に集まり、遊べる小兒は、學校にも、行かざる者と見えて、大を噛み合せ、棒を打擲り、無益の遊のみをなせり、此等は、後日、必愚なるものと、なるべし、汝等、賢き人とならんと思はば、能く心を用ゐて、常に、善き友と交り、必惡しき小兒等と、遊ぶべからず」

汝等、事の正しからざるを、知るときは、たとひ、他日、利あることゝ、思ふとも、決して、行ふべからず、又、惡しき業をば、假にも、心に、行はんとを、思ふべからず、若し心に行はんとを、思ふときは、縱令事には、出さずとも、既に行ひたるに、同じと知るべし

凡て惡事は、虚言より、始まるものなり、されば、暫く其身に、利益ありとも、決して、虚言すべからず、虚言を以て、得たる利益は、他人の物を、盗みたると同じく、終には、其身の害となるべし

むかし、一人の男兒ありて、毎に、狼來れり、狼來れり、誰か出て、救ひ給へと、大に呼びて、途を走れり、これ



は、真に、狼の來れるにはあらず、他人の、出來りて、救はんとするときに、欺き得たりとて、大に、其人を笑ふを以て、戲とするなり、

斯くすること、度々なりしが、ある日、真に、狼來りて、此男兒を、食はんとす、男兒は大に呼びて、狼來れり、救ひ給へと、いへども、誰も、亦例の虚言なるべしとて、これを救ふものなかりしゆゑ、終に、狼のためは、噛み殺されたり、

故に、平生、戲にも、虚言を以て、人を欺くものは、適、眞實のことを、話すとも、信となすもの、あらざれば、常に、憤むべきことならずや」

此處を、何如なる家なりと、思ふ○これは、書肆なり、爰に、三人の男あり、脩を載きたる、二人の者は、書籍を、買はんがために、此處に、來れるなり、一人は、既に、冊の書を、購ひ得て、去らんとす、一人は、机上の書の、價を定め居るなり、



も、倦怠の心を、生ずることなし、
夫神は、必勤むる人に、あらざれば、妄に物を與へずして、勤むれば、物を與ふるものなれば、身の勉強は、幸福を生む、母なりと知るべし、
されば人々、能く勉強して、身の幸福を、求むべし、勤むれば、必功あり、惰れば、必功なし、今日勉めずとも、明日ありと云ふことなかれ、今年學ばずとも、来年ありといふことなかれ、光陰は矢の如し、一度去りては、復還らず、壯年に至りても、一業、一事を習ひ得たることもなく、遂に貧窮困苦に陥るは、皆自招くの禍なり、

第五



はるゝや、○微しく笑へる、色あるを以て、其喜悅の心あるを、知れり、
人は、口を開かずとも、其笑を含めるは、心に喜のあるを、告ぐるが如し、顔色は、喜怒を、人に知らしむる、微なればなり、
凡衷に、喜、怒、哀、樂の情あれば、如何に、これを隠さんとすると、顔色の徴は、覆ふべからず、
されば、人に對しては、不平の心を、懷かず、親切に、遇すべし、何となれば、もし我心に、毫も怒をふくみ、又は不平の心あれば、必顔色に、形はるゝ者なればなり、其他、或は、不幸なるとき、或は倦怠せるとき、皆其心を、顔色に形はして、人に、知らしめざることなし、

第六

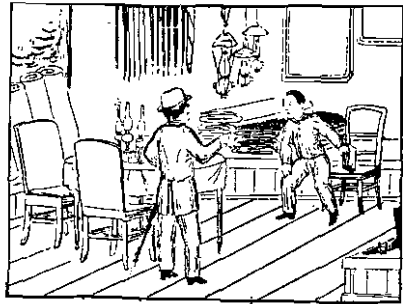
凡世間にある人は、貴きも、賤きも、父母より、生まれざるはなし、故に父母は、我身の、出で來し本なれば、本を忘るまじきことなり、況てや養育の恩、山よりも高く、海よりも深くして、幼き時より、晝夜、艱難苦勞して、抱き育てられたるをや、されば深く其厚恩を思ひて、孝順の心、怠るべからず、子の、父母につかへて、孝順なるは、神より命じたる、務なれば、これを忘るべからず、苟不幸の行あれば、唯に人の憎を、受くるのみならず、必神の責

を、免れざるものなり、

神は、我に性命をさづけ、又我を守りて、幸福を、與ふるものなれども、神に代りて、我を養育せしは、父母なり、されば父母は、神と同じく、敬ひ尊び、何事も、逆ふことなきを、孝順といふ、

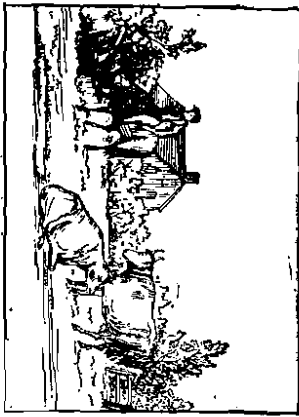
苟父母の命に、逆ふことあれば、神の責を受けて、禍に罹るにより、父母の誠は、わが身の、及ばざる所を、補ひ助くる所にして、則神明の命なりと、心得、決して背くべからず、

昔年一人の男子あり、其人となり、溫順にして、幼稚のときより、両親に、孝行たぐひなきものなりき、其家、固り富めるには、あらざれども、貧乏人を、憐み、凡て人に交るに、信實なるゆゑに、誰いふとなく、此男子を、善人と呼なせり、幼き時は、近郷の家に、僕たりしが、夙に起きて、一事、一業も、怠ることなく、暇あるときは、手習に、心を盡し、又好みて、讀書、算術を、學びしゆゑ、幾バツならざるに、利發の人となれり、



主人より、暇を與ふるときは、己の隨意に、遊ぶことなく、必我家に歸りて、父母の安否を問ひ、終日膝下に居て、事に従ひ、父母の心を、慰ることを、勤とせり、
主家を出で、後は、瑣細なる商をして、渡世せしが、人々、此男子の、正直なるを知て、其物品を、信じければ、幾バツもなく、稍豊になれり、
其後、父を喪ひて、母のみを、養ひたるが、晝夜、怠なく、介抱して、其心に、違ふことなく、假にも、母の厭々嫌ふことをなさず、常に善事を好みて、慈愛の心、禽獸、草木まで、及びければ、其家、次第に繁榮して、富有の身となれりとぞ、
宜なり、孝は、萬善の本といへること、此男子が、生涯の正直、慈惠、學ばずして、此に至れる者、皆孝より、生ずる所なり、
子の、父母に仕へて、孝順なるべきは、天地自然の道にして、須臾も忘るべからず、然れども、外物の為に、心を奪はれて、其道を失ふ者も、少なからざれば、常に其心を守り、自然の道を忘るべからず、
今日、太平の世に生れて、妻子と與に、鼓腹の樂を、享くこと、何の幸か、これに如かんや、故に宜しく、國法を、遵守して、各其業を勤むべし、凡人の子たるもの、幼時より、親に事ふること、此男子の如くせずは、あるべ

なり、既に人の爲に、此世界を造り、日あり、月ありて、物を照らし、また其目を蔽はしむるには、地上に、芳草を生じ、梢頭に、美花を開かしむ」



又能く諸物を推考して、物理を得ず、人は、能く言を出だして、意中を、語ることを得、こと能はず、又聲を發すれども、言を出だして、語ることを、食を味ふるは、人と同じと雖、其歩行するには、立つに立ちて、歩行す、獸は、能く物を食、香を嗅ぎ、聲を聞く人は、萬物の靈なれば、禽獸蟲魚と、異にして、能く眞直

第九

師傅は、父母に替りて、兒童を訓誡し、善道に進むことを、教ふるものにて、我身に、善教と、學術とを、授けて、我資益をなすに由り、父母に等しく、尊敬して、其恩を忘るべからず、

人は、家屋を造り、又諸の器械を、須むるゆゑに、地中より、銅鐵などを、出だして、これを造らしむ、凡て人の、關くべからざる物は、一として與へざることなし、人もし好音を好むときは、鳥、これが爲に歌ひ、芳香を好むときは、花、これが爲に満じ、暑日には、雷雨あり、炎熱、これか爲に去り、寒天には、新木あり發きて以て、煖を取るべし、これ皆神の賜ものにして、所として、これ有らざるはなし、凡此地上、及河海の萬物は、禽獸、蟲、魚、山林、草木の花實に至るまで、皆人を養ふか爲に、神の與へたるものなり、」

神、既に此諸物を、人に與へて、足らざるものなからしむ、故に人々懷みて、神の賜ものを受け、我身の生活を、計るべし、

然れども、惡心、惡行の人は、此賜ものを、受けること能はずして、生涯、貧窮なれば、其安樂を願はんには必勉强て、善を行ふべし、

人は、食物を須むるものゆゑに、田野に於て、穀物を與へ、山林に於て、鳥獸を與へ、河海に於て、魚類を與ふ、人は、衣服を須むるゆゑに、木綿と、蠶を生せしめ、或は野獸の背に、長き毛を、生じて、衣裳を製することを得しむ、

第八

此圖は、春日の景色なり、禽鳥は、晴空に舞ひ、蜂蝶は、



此圖せる所は、田舎の富家なり、其四面には、茂林、花木ありて、宅前の平地には、芝を栽たる、好き景色の所あり、

汝は、この家の圖を、能く見て、其様を知るべし、此屋は、數多の楳に、分れたるは、煙囪なり、みれば、煙室爐の、煙を出だすために、設たるなり、凡て物を見るときは、何の用たることを、考へ、又其形を、能く記憶すべし、物を見るときも、其用を考へず、又記憶せざると、能はざるものなり、

第七

からず、



芳草に戯れたり、

木は、嫩芽を生じ、草は、新葉を發し、看るとして、緑ならざるはなし、總て天生の物を、着くるが如し、

人の少年は、一生中の、春時なれば、才能の種子を、蒔くときなり、

少年の時は、精神も、充滿し、年數も、未達ければ、勉む、學びて、生涯の安樂を、冀望すべし、

少年の時に、勉む學ばざるものは、一年の春時に、種子を蒔かざると、同じく、生涯智識を開くことなし、

斯る少年等は、縱令富貴の家に、生まるとも、遂には、必貧窮とならん、

今世上に、富貴なる人と、貧賤なる人とあり、其智識と、行狀とを、見れば、富貴なる人は、智識も、開けて、行狀も、亦正し、これ皆少年のとき、能く勉學したるものなり、又貧賤なる人は、智識もなく、行狀も、亦正しからず、これ皆少年のとき、勉む學ばざるゆゑなり、

されば人々、幼少のときより、師の教示に、従事して、一身、一家を、立つることを、學ぶべし、

第十六
 愛に、一人の男あり、其子兄弟二人を、集めて、種々の、珍しき話を、聞かしむ、
 父曰、予前年、此世界を、一週せしとき、數多の國々に到り、種々の物を、見たり、一度、甚しき寒國に、到ることありしが、三個月の間、日光を、見ることなく、其間は、常に、夜なり、此國の住民は、雪又は氷を以て、家を造り、人は、皆其内に住めり、○兄弟曰、斯る國は、何處にありや、○父曰、此國は、地球の、南極と、北極とに、近き處にあり、
 父曰、予、其國に於て、一の高山を、見たり、其頂上は、甚高くして、甚寒し、頂上にある雪は、たえて融くことなし、人もし、此山に、登るときは、其頂上に、達せざる前に、凍死す、○兄弟曰、大陽は、何ゆゑに、其雪を融かさざるや、又其處に、夏はあらざるや、○父曰、其國は、夏といへども、我國の寒中より、尚寒し、又頂より、火を噴き出だす、高山ありて、噴き出づる烟



は、恰も烟筒の、烟のごとし、予、其烟を見しに、我家の烟筒を、集めて、一萬以上に、至らざれば、かゝる烟は、出でざるべしと、思へり、
 此父の話は、甚大なることなれども、決して虚言にあらず、眞實の話なり、
 父又曰、予、大海を、渡るとき、漁師の、捕へたる、鯨を見たり、此鯨は、殊に大なるものにして、長さ、凡、十間餘ありて、體の高さ、三間餘あり、數多の漁師は、鯨の脇腹に、穴を穿ち、腹中に入り、桶を擔ひて、其膏を、汲み出だせり、
 其他、大なる獸類を、數多見たりと、云へり、兄弟の兒は、喜びて、父の話を、聴き居たり、
 凡て小兒は、謹て、父母の話を、聴くべし、
 それ父母の言は、我身に益ありて、智識を増し、道理に適ふものなれば、子たるものは、柔順にして、其教に、順ふべし、これ、身を立つるの、基なり、
 父母は、我を育て、年も長じ、智慧も、優れたれば、其教に、順ふことは、もとよりにて、親の訓誡は、國の制律と、同じく、敬み畏れて、假にも、これに背くべからず、

第十七

一女兒、池上に、小き舟を、浮べたり、其舟の帆は、只一

第十四
 此獄中に、死したる人の、妻は、貧き家にありて、小兒を育てんとすれども、かねて、一錢の、貯蓄もなく、又其夫は、惡事をなして、獄中に、死する程の者なれば、村里の人々、これを憐み、助くるものなし、此故に、妻は、他人の、衣裳などを、洗ひ、僅に、其日の、活計をなせども、素より、女のことゆゑ、多分の金を、得ること能はず、動もすれば、其小兒を、餓死しむることあるを、如何にとも、すべきやうなく、日夜悲歎して、居たりしが、終には、其家にも、住み難くなりて、小



藁の上に、居るを以て、今日に至りては、また一滴の酒をも、得ること能はずして、只一人、暗き處に、坐し、絶て、心を慰むるものなし、
 既に惡事を、犯したれば、今更、悔悟すといへども、身を救ふの、術なくして、終に獄中に、死せり、
 家には、妻と、小兒あり、其妻は、何如にして、身を養ひ、又小兒を育てるや、其次條は、次條に、説示すべし、

第十五

此圖は、田舎の景色なり、いま畠より、穀物を積みたる、車を、挽きて歸り、家の門に入らんとす、
 汝は、此穀物を、何なりと思ふや、○これは、小麥なり、此穀物は、日に乾かし、穂を打ち落し、實と、藁とを別つ、○其のち、磨にて、これを挽き、小麥粉と爲し、各家に貯ふ、
 此小麥粉は、饅頭、素麵等を、製するに、用ゐるものなり、麥の種類は、小麥、裸麥、大麥あり、是等と、稻、豆、稗、粟等、を悉く、穀物といふ、穀物は、皆動物の、食と爲して、身の養と、なるものなり、



兒を構へ、故郷を、立ち去れり、
 それ酒は、能く人を、昏迷せしめ亦人を、狂亂せしむ○人の、困難するも、人の、悲歎するも、人の、爭論するも、又無益の言を、出だすも、道理なき事を、行ふも、皆酒のなましむる、惡業なり、

なきゆゑなり、此富人は、嘗て學校に入り、多年の間、勉強して、百般の學術を覚え、先きに、種々の機關を、發明し、大に、世上に、利益あることを、工夫し、今亦其身も、大利を得て、斯る富人と、なりたるなり、富人、衆人に、告げて曰、夫この地球は、大活物にして、勉むれば、必其報、あらざることなし、人能く勉めて、世に益あることを、工夫するに、苦勞する時は、其報も、必大にして、利を得ること、多きものなり、もし骨折れざる、業を爲し、或は只一身に、利あることを、勉むれば、其報、必小にして、利を得ることも、亦少し、予も、多年の間、刻苦して、纔に利を得たれども、今に至りて、猶無益に、時を費やすことなく、亦無益に、財を費やすことなく、固り自勉て、得たる貨なれば、皆我有にして、これを費やすも、隨意なりと雖、無益に、費やすは、正道にあらず、若し美服を以て、人に驕り、又僅の貨幣を、得るときは、心に、怠を生ずるは、實に愚にして、且不善なり、貨幣の、最要なるは、衣服、食糧を購ひ、或はこれを貧人に與へて、其饑餓、凍餒を救ふにあり、貨幣を得て、こ又を惜み貯へ、世間の用に供へず、又貧人にも、與ふることなく、又我富を以て、他人に驕るなどは、愚にして、吝なるものなり、人も必、これを憎み、神も必、これを罰せん、

神は、此地球を造り、人民の、生活する為に、用ゐる物を

第十八

船中にて、人の、はたらく處を、甲板といふ、○船の首を、艫といひ、船の後を、舳といひ、右の舷を、面楫といひ、左の舷を、取楫といふ、○船後に、突き出で、水中に、入りたるものを、舵といふ、舵は、船の行くべき、方向を、定むるものなり、



ば、皆此地球上に、生ぜしむれば、人々、其道を盡して、これを求むるときは、何物にても、得ざることをなし、然れども、人々の善惡と、勤怠とに因りて、物を得ると、得ざるとあり、且又人の務に従ひ、物を得るに、差等あり、今遊戲にのみ、耽りて、少しも、心を、他事に用ゐざれば、此地球は、徒に遊戲の、場所となるのみ、又財を蓄るにのみ、勞して、心を、他事に、用ゐざれば、此地球は、只財を積むの、場所となるのみ、もし風車等の、機關を設けて、世間に、利あることを、計るときは、この地球は、種々の機關を、設くべき、場所となれり、人々、能く心を用ゐて、世間に、利あることを、計るべし、世間に、利ある時は、亦必、我身に、利あるものなり、此の如きときは、此地球を、生じたる、神慮にも、合ふといふべし、今この圖に、畫けるは、富人、多くの貨幣を、出だし、衆人に、示すに、衆人、これを見て、大に感じたる所なり、蓋、此輩は、斯る多くの貨幣を、得たること



それ貨幣は、用ゐる道に由り、善きものとなり、又惡きものとなる、故に、道の當否に、從ひ利害ともに、此貨より、起るものなり、故に怠惰にして、貧賤なるは、實に恥づべきことなれども、貨のみを、愛着するも、害の根原なり、人々出精して、其業を勉め、其富を計るべし、既に富めるに至らば、これを、世間の用に供へて、貧人を救ふを、第一とすべし、

第十九

平生、斷えず、業を勉むるは、樂しからず、又斷えず、遊戲を、事とするも、樂しからず、故に、就業の時間は、出精して、業を勵み、然る後に出遊する時は、その樂を、覺ゆるものなり、就業中に、出精せざる時は、其心に、恥を懷きて、快からず、行の、善良なるは、心の快きを得る、良法なり、怠惰なるものは、心の快きことなし、何となれば、其行狀の不善なるゆゑに、恥づる所あればなり、一事を、成さんとせば、必其心を放つことなく、一時にこれを爲べし、或ハ事業多くして、力に餘ることありとも怠慢なく、これを勉むれば、必其効ありて、能く成就す、故に勉むれば、何事も易く、勉めざれば、何事も難し、書を讀さんとするときには、如何に難き所にても、これを



童子、既にして、一の緒を、求め得たるゆゑに、頻に、これを引けば、益固結して、復解くべからざるに至る、因りて、更に狼狽して、一線を断せり、母、これを止めて曰、汝過れり、此の如くする時は、適に其紛亂を、益すのみ、暫、汝が心を静め、思を平にして、正き緒を、求むべし、既

古語に、謙は、益を受く、滿は、損を招くといへり、終日、業を務むれば、心中に、爽快を覺え、今日遊怠なれば、翌日、繁忙の愁あり、古語にまた、終身、道を譲るとも、百歩を枉げず、終身、畔を譲るとも、一段を失はずといへり、是禮讓の、得ありて、損なきを論せるものなり、

第二十一

昔、一人の童子あり、天性至孝にして、善く其母に事へ、毫も其命に違ふことなし、母、事を命ずる毎に、直に立ちて、これを行ひ、常に怠らず、

母、嘗て紡絲を繰りて、絲環に、紆ふことあり、其子に命じて、紡絲を、手に掛けしむ、童子は、絲を、紆ふの問過ちて、これを紛亂し、解けざるゆゑ、急に、これを解かんとするに却りて、緒を失へり、

第二十

禮は、教化の本にして、人民の惡念を、止め、善心を、開き、人道を、離れしめざるものなれば、須臾も、違ふべからざるものなり、

人性は、本、善なるを以て、辭讓の心を、有せざるものなし、然れども、人欲の、私に由りて、本然の性を失ひ、遂に放肆遊惰のものとなるなり、

人々、幼稚の時より、人欲の私に、克ちて、本然の性に、復るべし、父母に、事ふるときは、孝養なるべく、長上に、事ふるときは、恭順なるべし、兄弟の友愛も、朋友の信義も、親族の協和も、皆禮より、生ずるものゆゑに、禮は、身を立るべしの、本なりと、知るべし、

なく、書の通ぜざることなし、

人の、世に生れ來しは、天主を助けて、國用を資するものなるに、何等の業も、勉めず、國家の益を、なさざるものは、自禍を招きて、困窮に陥るべし、此等は、天に恥ぢ、人に、恥ぢ、又我心に、恥づること、大なり、

それ貪欲は、私情の、惑にして、此念を肆にするときは、遂に、殘暴の行を、なすに至る、又忿怒は、一時の狂疾にして、此心を、抑へざるときは、遂に争鬭の端を、開くに至る、必竟は、皆幼稚のときより、辭讓の心を失ふによれり、

に、正き緒を得れば、亂れたる絲は、自解くるものなりと、母、又童子に、告げて曰、夫人世の、業を務むるは、猶亂れたる絲を、理むるが如し、是に監み、宜しく、汝の終身を、計るべし、世に處し、事に臨みて、苟私欲、忿怒に惑ひ、己の血氣を、抑へざれば、縦令苦心焦思して、其力を盡すとも、徒に勞して、功なきのみと、

小學讀本卷之四

田中義廉 編輯
那珂通高 校正

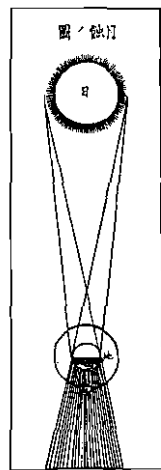
第一

人民ノ、住居スル世界ヲ、地球ト云フ、其形ハ、圓キ者ナリ、何ニ由リテ、其圓キコトヲ、知ルヤ、玉ヲ燈火ニ照セバ、其影ノ、映ルコト、玉ト同ジク、圓シ、箱ヲ、燈火ニ照セバ、其影ノ、映ルコト、箱ト同ジク、方ナリ、今月蝕ハ、太陽ニ照サレタル、地球ノ影ノ、月ニ映リタルモノナレバ、若地球、方ナラバ、其影必箱ノ如ク、方ナルベキニ、其蝕シテ、暗キ處ハ、常ニ、玉ノ如ク、圓キヲ以テ、コレヲ推セバ、地球ノ形モ、圓キコトヲ、知ルベシ、此地球ハ、諸ノ行星ト同ジク、太陽ヲ回リテ、光ト熱トヲ、太陽ヨリ受ケ、此地球ヲ、照ス月ハ、地球ニ隨フ所ノ、衛星ニシテ、光ヲ太陽ヨリ受ケ、二十七日・七時四十三分ニシテ、地球ヲ一周回ス、地球ハ、太虚ノ間ヲ行クコト、三百六十五日・五時四十九分ニシテ、太陽ヲ一周回ス、其回ル間、一晝夜ニ、別ニ自一旋轉ス、其轉ズル毎ニ、太陽ニ向ヒタル處ハ、晝トナリ、太陽ニ、背キタル處ハ、夜トナルナリ、

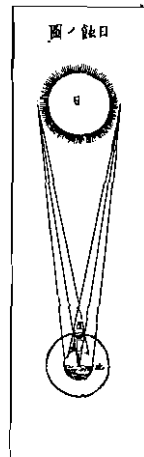
地球ノ、周圍ニハ、一面ニ、星アリト雖、晝ノ間ハ、太陽ノ光ニ、奪ハル、ヲ以テ、コレヲ見ズ、夜暗キニ、至リテ、始メテ見ハル、譬ヘバ、燈火ノ、日中ニ、光ナクシテ、夜ニ入レバ、四方ヲ照ラスガ如シ、故ニ日蝕ノ時ハ、晝ノ間ニ、星ヲ見ルコトアリ、

第二

月蝕ハ、地球、太陽ト、月トノ間ニ、介マリテ、太陽ノ光ヲ、隔ルノミニシテ、月ノ隠ル、ニハアラズ、



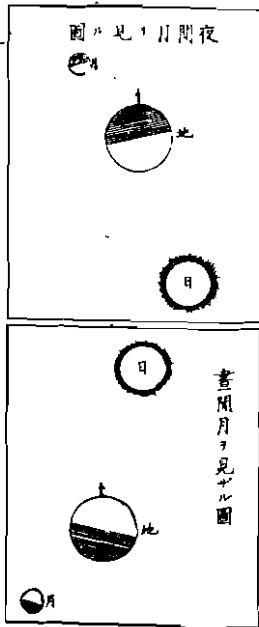
日蝕ハ、月、地球ト太陽トノ間ニ、入リテ、日光ヲ、遮ルニ由レリ、故ニ太陽ノ、暗キ所ハ、月ノ影ニテ、隠レタルナリ、其時ニ因リテ、遮ルニ、多少アリ、一部分ヲ、蝕スルコトアリ、全體ヲ、蝕スルコトアリ、又、其周圍ヲ、殘スコトアルヲ、名ケテ金環蝕トイフ、



第三

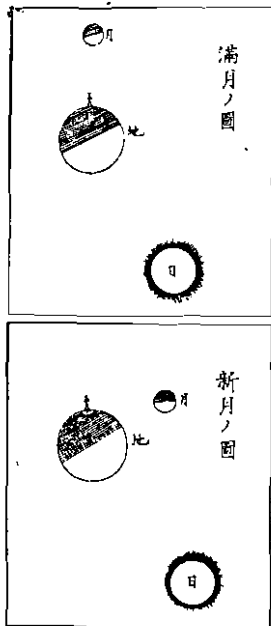
月ハ、原ト地球ト同ジク、其體暗キ者ナレドモ、太陽ノ、光ヲ受ケテ、始メテ、光ルモノナレバ、地球ノ影ノ蔽フ處ハ、暗キニ復ス、譬ヘバ、夜間ニ燈火ヲ消ス時ハ、其光鏡玉ノ如キ者モ、亦黯然トシテ、戸壁ト異ナラズ、既ニシテ、再、燈火ヲ點スレバ、鏡玉ノ光アルコト、戸壁ト同ジカラザルガ如シ、此理ヲ推シテ、月モ太陽ノ光ニ映ジ、始メテ光ルモノトナルコトヲ、知ルベシ、

人ハ、夜間ニ、太陽ヲ見ズト雖、月ハ、其光ニ映ジテ、輝クナリ、今コレヲ譬フルニ、燈火ヲ一室ニ置キ、鏡ヲ隣房ニ懸ケ、其中間ノ、戸ヲ開ケバ、人ハ、燈火ヲ背ニシテ、コレヲ見ズト雖、鏡ノ光ハ、明ニ見ユルガ如ク、地球上ノ太陽ト、相對セザル處モ、猶月ノ光ヲ、見ルコトヲ得ルナリ、



サレバ、月、太陽ニ向フトキハ、常ニ、圓クシテ、光アレドモ、地球ノ、月ト對セザル處ハ、全ク其光ヲ見ルコト能

ハズ、其コレヲ見ルニ至リテ、半月・弦月ノ別アルハ、地球ノ、月ニ對セル、部分ニ多少アルヲ以テナリ、月ノ形ノ、變化スルニアラズ、



是故ニ月ノ光、全ク見ユルヲ、満月トイヒ、又、薄暮ニ至リテ、僅ニ光アル部分ヲ見ルヲ、新月トイフモ、皆地球上ヨリ、立テタル稱ナリ、

第四

地球ノ、太陽ト相對スル處ハ、晝ニシテ、太陽ト向ハザル處ハ、夜ナルユエニ、見ルコト能ハズト雖、太陽ハ、晝夜共ニ、光無キコトナシ、只太陽ニ向フ處ト、向ハザル處トニヨリテ、地球ニ晝夜ノ別アリト知ルベシ、

是故ニ地球ノ東、晝ナルトキハ、西ハ夜トナルナリ、因リテ、我住居スル處、晝ナレバ、我ト反對セル處ハ、夜ナリト知ルベシ、

太陽ハ、日々朝ニ昇リテ、夕ニ入ルガ如クニ見ユレドモ、實ハ、太陽ノ地球ヲ回ルニアラズ、我地球ノ、日々西ヨリ東ヘ轉リテ、午前ハ、太陽ニ向フユエニ、日ノ登ルガ如ク、見ユ、午後ハ、太陽ニ背クヲ以テ、日ノ入ルガ如クニ、見ユルナリ、

カク、運動スル地球ハ、靜ナルガ如クニシテ、靜ナル太陽ハ、運動スルガ如ク、見ユル者ハ、何ゾヤ、譬ヘバ、蒸氣車ニ乘リテ、速ニ走ルトキ、兩側ノ山、及、人家ノ、行クガ如クニ、見ユルニ同ジク、地球ノ旋ルニヨリテ、太陽ノ昇降スルガ如クニ、思ハル、ナリ、

地球ノ、西ヨリ東ニ回ルコト、カクノ如クナルニ因リテ、太陽ハ、東ヨリ西ニ、行クガ如クニ、見ユルナリ、

地球ノ旋グルニ隨ヒ、我居ル處モ、夜半ヨリ日中マデハ、漸ク轉ジテ、太陽ニ向フ、此間ヲ午前トイヒ、又、其日中ヨリ夜半マデ、太陽ニ背ク間ヲ午後トイフ、

昔時ハ、地球ヲ靜ナルモノトシ、太陽・及・月・星ヲ、地球ヲ、回ルモノトナセシニ、今ハ發明シテ、太陽ト星ノ回ルニアラズ、地球ノ日々自旋ルコトヲ、知レルナリ、

第五

星ニ二種アリ、一ヲ定星ト云ヒ、一ヲ行星ト云フ、定星ハ、一處ニ止マリテ、運行セズ、光アルコト太陽ノ如シ、其光ノ大小ニ隨ヒ、十七等或ハ二十等ニ分ツ、但其地

行星ノ、尤太陽ニ近キモノハ、水星ニシテ、八十七日ニ、太陽ヲ一周回ス、

次ニ、行星ノ太陽ニ近キ者ヲ、金星トス、二百二十四日・十七時ニシテ、太陽ヲ一周回ス、次ニ、太陽ニ近キハ、地球・及・月ナリ、

其他ノ行星ハ、皆太陽ヲ距ルコト、地球ヨリ遠シ、故ニ火星ハ、六百九十七日ニシテ、太陽ヲ一周回ス、火星ト水星トノ間ニ、數十ノ小行星アリ、

木星ハ、十二年ニシテ、太陽ヲ一周回ス、尤大ナル行星ニシテ、周圍中ニ、四個ノ衛星アリ、

土星ハ、三十年ニシテ、太陽ヲ一周回ス、大サ木星ニアラズ、外圍ニ平ナル、環アリテ、コレヲ繞レリ、此環ハ、太陽ノ光ヲ受ケテ、光輝アルコト、月ノ如ク、周圍中ニ、八個ノ衛星アリ、

天王星ハ、八十四年ニシテ、太陽ヲ一周回ス、周圍中ニ、四個ノ衛星アリ、

海王星ハ、太陽ヲ距ルコト尤遠ク、百六十四年ニシテ、太陽ヲ一周回ス、上ニ一個ノ衛星アリ、

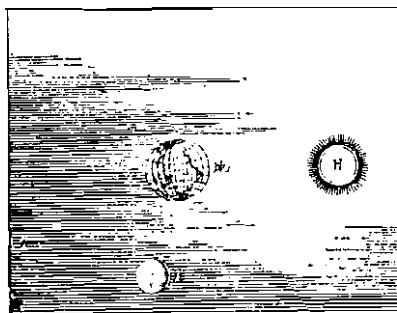
七行星ノ中、木星ハ、地球ヨリ大ナルコト、一千二百倍アリ、土星・天王星・海王星モ亦地球ヨリ大ナリ、其大サ殆ト地球ニ同ジキモノヲ、金星トス、地球ヨリ小ナルモノハ、火星・水星ニシテ、水星尤小ナリ、

球ヲ距ルコト、甚遠キヲ以テ、尋常コレヲ望メバ、只一小點ノ光輝ヲ見ルノミ、然レドモ、其實ハ、我地球ヨリモ、大ナル者アリ、

行星ハ、我地球ト同ジク、皆一箇ノ世界ニシテ、空中ヲ運行スルコト、數月、或ハ數十年ノ間ニシテ、太陽ヲ、一周回ス、

地球モ、亦行星ノ一ニシテ、一年ノ間ニ、太陽ヲ一周回ス、定星ノ、太陽ノ如キヲ以テ推セバ、其周圍ニ、行星アルコト、亦太陽ノ如クナラン、行星ノ數ハ、其發見スル所、近年ニ至ルマデ、凡一百餘アリ、其中尤大ニシテ、且明ナルヲ、水星・金星・火星・木星・土星・天王星海王星トス、コレヲ、七行星トイフ、又コレニ、地球ヲ合セテ、八行星トイフ、

此行星、或ハ西ニ見ハル、コトアリ、或ハ東ニ見ハル、コトアリ、其光赤クシテ、火ノ如クナルハ、火星ナリ、金星ハ、曉星、又夕星トイフ、其光白クシテ、新月ノ如キ光輝ヲ放ツコトアリ、

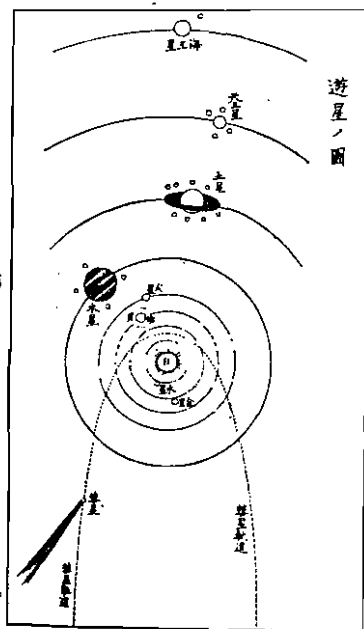


以テ、見ル所甚大ナリ、七行星・及・地球ハ、各自ニ太陽ヲ回ル、月ハ地球ヲ回り、且地球ト共ニ、太陽ヲ回ルモノナリ、

彗星ハ、行星ノ一種ニシテ、或ハ鮮明ナル、長キ尾ヲ引ク者アリ、或ハ種々ノ、光芒ヲ發スル者アリ、

此星ハ、運行極メテ速ニシテ、其太陽ヲ回ルコト、他ノ行星ノ如クナラズ、且其軌道、甚遠大ニシテ、橢圓狀ヲナシ、或ハ太陽ニ近ヅキ、或ハ甚遠ザカルコトアリ、

銀河ハ、數百萬ノ定星ノ、集合セルニ、似タリト雖、實ハ集合セルニアラズ、其間遠ク隔タレル者ナリ、但、方向相重ナルヲ以テ、コレヲ望メバ、其一處ニ、集合セルヲ見ル



月ハ、地球ニ隨フ衛星ニシテ、其體小ナリト雖、其近キヲ

第六

コト、猶遙ニ、林木ヲ見ルガ如シ、
天地間ノ動植物、皆其生ヲ、遂グルコトヲ得ルハ、太陽アルヲ以テノ故ナリ、太陽ノ熱ハ、水ヲ暖メテ、其氣常ニ、陸地ヲ環ルガ故ニ、動植物、皆コレガタメニ生育ス、モシ熱ナキトキハ、其水盡ク海中ニ集リ、陸地ノ物、生ヲ遂グルコトヲ得ズ、

太陽ハ、獨其熱ノミ、用ヲ為スニアラズ、又光アリテ、諸色ヲ生ジ、萬物ヲシテ、文彩ヲナサシム、若シ太陽ナキ時ハ、木葉花卉、皆色ヲナスコト能ハズ、

太陽ノ熱ハ、其益極メテ博シ、地ヲ暖メテ、草木ヲ生長シ、河海ノ水ヲ暖メ、其氣ヲ蒸騰セシメテ、雲ヲ生ジ、雨露ヲ降シ、草木ニ灌溉シ、又空氣ヲ暖メ膨脹セシメテ、風ヲ起シ、其氣ヲ交換シ、人畜呼吸ノ養ヲナス、若太陽無キトキハ、地モ草木ヲ生ズルコト能ハズ、假令、草木ヲ生ズトモ、雨露ノ養ナキトキハ、成長シテ、花ヲ開キ、實ヲ結ブコト能ハズ、

草木枯レ盡キテ、果穀ヲ得ザルトキハ、人畜モ、亦生活スルコト能ハズ、故ニ太陽ノ、光ト熱トハ、萬物其惠ヲ被ラザル者ナシ、

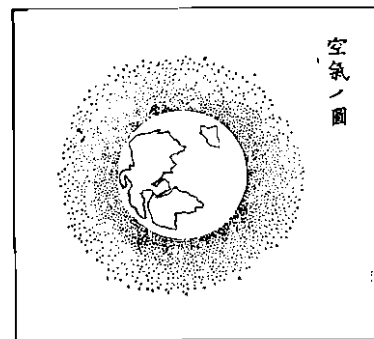
第七

地球ノ、周圍ヲ包ミテ、萬物ノ内外ニ、充滿スル者ヲ、空

氣ト云フ、其高サ凡二十餘里、下ハ濃厚ニシテ、上ハ稀薄ナリ、

空氣ハ、其色薄クシテ、透明ナルヲ以テ、人目ニ觸レズト雖、其氣、充滿セザル所無ク、草木此中ニ生長シ、人畜其中ニ生活ス、今扇ヲ動カセバ、風ヲ生ジ、又速ニ走レバ、體ニ抗スルモノアルヲ覺ユ、是即空氣ノ、充滿セル證ナリ、凡地球上ニ、生活スルモノハ、空氣ヲ呼吸シテ、其養ヲ受ケザル者ナシ、故ニ空氣ヲ生活物、第一ノ要品トス、

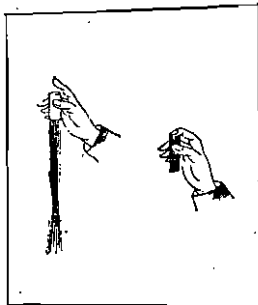
空氣ハ、他物ト共ニ、一處ニ在ルコト能ハズ、タトヘバ、硝子瓶ヲ倒ニシテ、水ニ突入ル、ニ、水ハ瓶中ニ入ルトイヘドモ、其底ニ到ルコト能ハザル者ハ、瓶中ニ空氣アリテ、水ニ抗スルガ故ナリ、



空氣ハ、其量甚輕クシテ、コレヲ水ニ比スルニ、凡八百分ノ一ニ過ギズ、然レドモ、其輕キコト、空氣ニ愈ルモノアレバ、能ク空中ニ飛揚ス、雲烟是ナリ、

第八

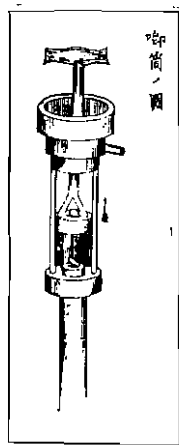
空氣ハ、萬物ヲ、上下四方ヨリ壓塞シ、其物ニ、些ノ間隙アル時ハ、直ニ入リテ、其中ニ填ツ、今細キ管ニ、水ヲ滿テ、一方ノ口ヲ塞ギ、急ニコレヲ倒ニスルニ、其水流レ出ヅルコトナシ、是空氣下ヨリ、管中ノ水ヲ支フルガユエナリ、若、上ノ口ヲ、開クトキハ、管中ノ水、一時ニ流れ出ツ、是空氣上ヨリ壓シ入ルヲ以テナリ、



又硝子壺ニ、水ヲ滿テ、濡タル堅厚ノ紙ヲ以テ、コレヲ蓋ヒ、急ニコレニスルモ、水ハ流れ出ヅルコトナシ、又管中ニ活塞ヲ置キ、管端ヲ水ニ入レテ、活塞ヲ挽キ上グレバ、水活塞ニ隨ヒテ、管中ニ上昇ス、コレ管外ノ空氣、常ニ上ヨリ水面

ヲ、壓スルヲ以

テ、管下ノ水分



子、コレガ爲ニ
推サレテ、管中
ノ空虚ナル處ニ、入ルガ故ナリ、今世廣ク用キル所ノ唧筒ハ、此理ヨリ、出デタル者ナリ、

第九

今空氣ノ、下壓スル力ヲ、量ラントスルニハ、先ツ細長ノ硝子管ニ、水銀ヲ滿テ、又コレヲ、水銀ヲ滿テタル、鉢ノ中ニ、倒入スルニ、管中ノ水銀ハ、盡ク流れ出デズシテ、猶管中ニ昇ルコト、二尺五寸餘ナリ、故ニ、空氣ノ下壓スル力ハ二尺五寸餘ノ長サナル、水銀柱ノ重ミト、平衡ナルヲ知ルベシ、



然レドモ、空氣ニハ時ニヨリテ淺深厚薄ノ、差違アリテ、其壓力、

常ニ齊シキコト能ハズ、譬ヘバ、海潮ノ進退アルガ如シ、故ニ、管中ニ昇リタル、水銀ノ高サモ、常ニ同ジキコト能ハズ、

又空氣中ニ、一處ノ、稀薄ナル、部分ヲ生ズル時ハ、近傍ニアル、濃厚ノ空氣、コレニ向ヒ來リ、動搖シテ、風ヲ起ス、是風ハ、空氣ノ、運動スルモノナレバナリ、故ニ空氣中ニ於テ、急ニ稀薄ナル所ヲ生ズレバ、空氣ノ運動モ、亦急ナリ、其運動急ナル時ハ、疾キ風ヲ生ジ、徐ナル時ハ、緩キ風ヲ生ズルナリ、
空氣ノ、厚重ナルトキハ、雲高ク浮ブヲ以テ、雨ナシ、空

氣稀薄ナルトキハ、雲必卑ク低シ、凝リテ雨トナルナリ、此理ニ由リテ、風雨計ヲ作り、預メ風雨陰晴ノ、變ヲ知ルコトヲ、得ルナリ、其法、右莖ハ、細ク長クシテ、左莖ハ、太ク短キ、硝子ノ曲管中ニ、水銀ヲ盛り、傍ニ度數ヲ記シ、コレヲ、懸ケ置ク時ハ、空氣短キ管ノ口ヨリ、水銀ヲ壓シテ、長キ管ニ昇ラシム、此水銀ノ、高ク昇ルヲ晴天トス、又空氣ノ、稀薄ナルトキハ、其水銀ヲ、壓スル所ノ力、弱キユエニ、長キ管ノ水銀、漸降リ來ルナリ、コレヲ以テ水銀ノ卑ク低ル

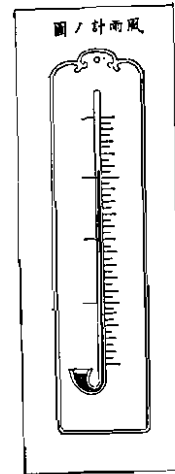


孔ヲ穿チテ、空氣ヲ通ゼシム、モシ、空氣通ゼザルトキハ、必火隨ヒテ消滅ス、是熱シタル空氣、上昇シテ、缺乏スレドモ、コレヲ補フ、冷氣ナケレバナリ、

赤道ノ下ハ、太陽ノ熱、常ニ強キヲ以テ、空氣輕浮スル故、南北ノ冷ナル空氣、此地ニ向ヒテ、突キ入り、其空缺ヲ、補ハントスルヲ以テ、赤道以北ノ地ハ、常ニ北風多ク、赤道以南ノ地ハ、常ニ南風多シ、

風ノ寒暖アルハ、觸レ來ル地ノ、寒暖ニ由レルナリ、北風ノ寒キハ、北方寒帶ノ地ニ、觸レ來ルニ由リ、南風ノ暖ナルハ、南方熱帶ノ地ニ、觸レ來ルニ由リテナリ、赤道以北ノ地ハ、常ニ北風多シト雖、夏ハ多ク南風吹ク、是冬ハ、太陽南ニ行キテ、海上ハ陸地ヨリ、暖ナル故ニ、陸地ノ冷氣、海上ニ向ヒテ移リ、北風トナレドモ、夏ハ太陽北ニ行キテ、陸地ハ海上ヨリモ、暖ナル故ニ、海上ノ冷氣、陸地

ルナリ、



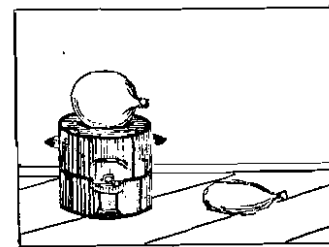
第十

空氣ノ、下壓スル力ハ、二尺五寸餘ノ長サアル、水銀柱ト平衡スルヲ以テ、其力ヲ算スルニ、一寸四方ヲ壓スルハ凡二貫五百二十匁アリ、人ハ、此強キ力アル、空氣ノ中ニ奔走シテ、其重キヲ覺エザルハ、人ノ體中ニモ、亦空氣アリテ體外ノ氣ト、相抗シ、互ニ平衡スル故ナリ、譬ヘバ、魚ノ水中ニ在リテ、體中ノ水ト、體外ノ水ト、相抗シ、其重キヲ覺エザルガ如シ、今竹筒ノ上口ヲ蓋フニ、平ナル紙ヲ以テシ、若、下口ヨリ吸フトキハ、紙ノ蓋、必内ニ凹ムナリ、

コレ筒中ノ氣、減ジテ、筒外ノ氣ニ、抗シ難キガ故ナリ、

第十一

凡空氣ハ、熱ヲ得レバ、膨脹シ、冷ナレバ、收縮スルコト、他物ニ比スレバ、尤甚シ、今厚紙ノ袋ノ中ニ、半バ空氣ヲ入レテ、其口ヲ緊シク束ネ、火上ニ置クトキハ、熱ヲ得ルニ隨ヒ、漸々膨脹シ、甚シキニ至レバ、遂ニ破裂ス、是其證ナリ、



又吸角子ノ中ニ、木綿一片ヲ置キ、コレニ火ヲ點ズレバ、角子中ノ空氣、忽膨脹シテ溢レ出ヅ、此時角子ノ口ヲ、人體ニ貼クルコト、少時ナレバ、角子中ノ氣、再冷ニナリ、收縮スルヲ以テ、外氣其中ニ、入ラントシ、コレヲ壓スルコト、甚強シ、此故ニ、角子ハ人體ニ吸著シテ、容易ニ離ル、コトナシ、是モ亦其證ナリ、

今夫、地面ノ熱ハ、各處同ジカラズ、一處極メテ、熱スルトキハ、其地ノ空氣、膨脹シテ、輕クナリ、高ク浮ブ、此トキ、傍近ノ冷地ニ、在ル所ノ、空氣ハ、其厚重ナルヲ以テ、急ニ、空氣ノ輕浮セル、熱地ニ突キ入ラントシテ、此地ヨリ、彼地ニ運動ス、是風ノ起ル所以ナリ、故ニ風ハ、空氣ノ、冷熱均シカラザルヨリ、生ズル者ト知ルベシ、

タトヘバ、一室ノ内ヲ暖タメ、鴨柄ト、敷居ノ處ニ、各空際ヲ開キ、燭火ヲ、上隙ニ置クトキハ、其焰外ニ走り、下隙ニ置クトキハ、其焰内ニ向フ、コレニヨリテ、熱シタル

空氣ハ、輕クナリテ、高ク

浮ビ、冷ナル空氣ハ重クシ

テ、下ヨリ入り、互ニ交換

スルノ、理ヲ知ルベシ、

故ニ、風爐ノ下邊ニハ、必

孔ヲ穿チテ、空氣ヲ通ゼシム、

モシ、空氣通ゼザルトキハ、必

火隨ヒテ消滅ス、是熱シタル空氣、

上昇シテ、缺乏スレドモ、コレヲ補フ、

冷氣ナケレバナリ、

赤道ノ下ハ、太陽ノ熱、常ニ強キヲ以テ、

空氣輕浮スル故、南北ノ冷ナル空氣、

此地ニ向ヒテ、突キ入り、其空缺ヲ、

補ハントスルヲ以テ、赤道以北ノ地ハ、

常ニ北風多ク、赤道以南ノ地ハ、

常ニ南風多シ、

風ノ寒暖アルハ、觸レ來ル地ノ、

寒暖ニ由レルナリ、北風ノ寒キハ、

北方寒帶ノ地ニ、觸レ來ルニ由リ、

南風ノ暖ナルハ、南方熱帶ノ地ニ、

觸レ來ルニ由リテナリ、赤道以北ノ地ハ、常ニ北風多シト雖、夏ハ多ク南風吹ク、是冬ハ、太陽南ニ行キテ、海上ハ陸地ヨリ、暖ナル故ニ、陸地ノ冷氣、海上ニ向ヒテ移リ、北風トナレドモ、夏ハ太陽北ニ行キテ、陸地ハ海上ヨリモ、暖ナル故ニ、海上ノ冷氣、陸地

第十二

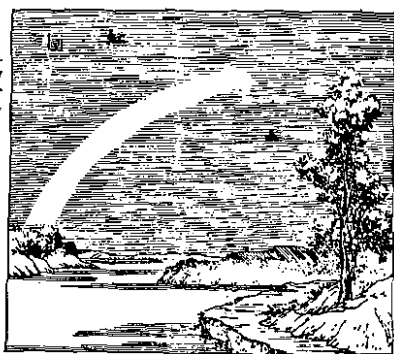
雨ハ、河海、或ハ地上ヨリ、水氣ノ、空中ニ昇リ、凝リテ、點滴トナリ、再、降リ來ルモノナリ、總テ、水ハ、流動ノ體ヲ以テ常ト爲スト雖、熱ニ遇フトキハ、變ジテ、氣狀トナリ、蒸シテ、上ニ昇ルモノナリ、若

水ハ流動シテ、散ジ易キ者ナリト雖、其點滴ノ、細ナル者ニ至ルマデ、亦相吸フノ力アリ、コレヲ水分子ノ凝聚力トイフ、

今草上ノ露、點々相集リテ、一滴トナリ、其形・球ノ如ク、又乾キタル地上ニ、水ヲ灑グトキハ、其點滴ノ細ナル者、相集リテ、圓形ヲナス是皆、相吸フノ、力アル故ナリ、

極メテ細キ鐵線ヲ、能ク拭ヒ乾カシテ、徐ニ水上ニ置ケバ、浮ビテ沈マズ、是體質甚輕ク、水ノ凝聚力ヲ、壓シ開キテ、入ルコト、能ハザルヲ以テナリ、金石ノ類ハ、體質甚重キ故ニ、水ニ投ズレバ、忽沈ムト雖、コレヲ研磨シテ、小片トナス時ハ、能ク水上ニ浮ブモ、亦此理ナリ、

第十四

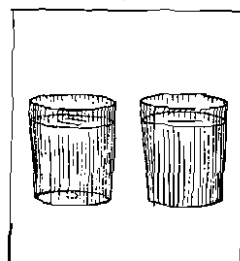
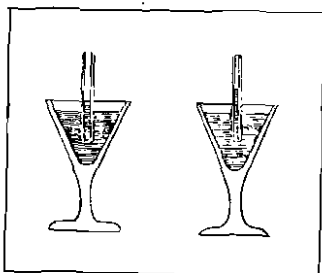


水ハ、動植物ノ、生育スル源ニシテ、飲食モ、亦水ニ資ラザル者ナシ、牛酪モ、水無キ時ハ、得ルコト能ハズ、何トナレバ、牛ハ、唯水ヲ飲ムノミナラズ、又草ヲ食フ、草モ水無ケレバ、長ズルコト、能ハザレバナリ、

然レドモ水ハ、互ニ相引クノミナラズ、亦他物ト、相引クノ力アリ、假如ヘバ、硝子ノ細管ヲ、水中ニ突キ入レテ、コレヲ舉ゲルニ、其水、管中ニ留マリテ、落ちズ、是水ト管ト、互ニ相引クノ、力アルニ由リテナリ、但、管口細小ナレバ、引力多ク、粗大ナレバ、引力少シ、其理ハ、水ノ分量ニ比較スルニ、其口ノ周邊、水ト接スル所ノ、多少ヲ異ニスレバナリ、

水ノ外、油・酒・水銀等ノ類モ亦流動物トイフ、水ト性ヲ、同ジクス、其熱度ヲ、變ゼザレバ、増減スルコト極メテ少シ、

靜水ノ表面ハ、一樣ニ平ニシテ、側ツコトナシ、今一壺ニ水ヲ滿タシメ、平ニ置キテ、靜ニスル時ハ、壺中ノ水面モ、嘴ノ水面モ、高下相齊シ、又一管ヲ壺中ニ挿入スルニ、管中ノ水面モ、必壺中ノ水面ト、一樣ニ平ナリ、是故ニ、竝ノ水ノ、地中ヲ通り、再高キ處ニ昇ルモ、皆水源ト、高下ノ平均ヲナスナリ、水ハ、上下四面ヲ壓スル、其重サ皆同



シ冷熱相均シケレバ、流動ノ體ニ復シ、又熱ヲ失フコト、多ケレバ、凝リテ固結ノ物トナル、冰是ナリ、

河海、或ハ地上ノ水、太陽ノ熱ヲ受ケ、空中ニ、蒸騰スルコト、猶、鍋ヲ火上ニ置ケバ、其中ニ在ル所ノ水、火ノ熱スルニ從ヒテ、漸々蒸騰スルガ如シ、

蒸氣ハ、透明ニシテ、色ナキ者ユエ、其熱ヲ得ルコト、多キ聞ハ、空中ニ充滿スト雖、コレヲ見ルコト能ハズ、然レドモ、熱ヲ失フニ從ヒテ、相集リ雲トナル、雲ハ是、蒸氣ノ少シク、冷エタルモノニシテ、其熱ヲ失フコト、甚シキトキハ、凝リテ流動ノ體トナリ、地ニ落ツルモノ、即雨ナリ、

地上ノ水、又ハ杯盤ノ水モ、久シキヲ經レバ、漸ク消滅ス、世人、コレヲ呼ビテ、乾クトイフ、然レドモ、此水ハ、消滅スルニアラズ、蒸氣トナリテ、空中ニ飛散スルナリ、故ニ熱ヲ失フトキハ、必再凝リテ、水トナル、今暖ナル室中ニ、冷物ヲ入ル、時ハ、其周圍ヨリ、露ノ滴ルヲ見ル、是室内ニ飛散スル、蒸氣ノ、其冷ナルニ、觸レテ、忽熱ヲ失ヒ、再凝リテ、流動體トナレルモノナリ、

今蒸溜罐ヲ以テ、水ヲ蒸溜スルハ、其理全ク雨ト同ジ、又罐中ノ水ノ、蒸騰スルハ、河海ノ水ノ、空中ニ滿ルガ如シ、又罐ノ蓋ニ凝リテ、水トナリ、滴リ落ツルハ、恰、空中ニ滿チタル、蒸氣ノ、雨トナリテ、降ルガ如シ、

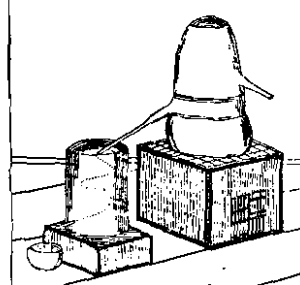
日中ニ、蒸騰スル、水氣ノ、夜間ニ至リ、熱ヲ失ヒ、草木等ニ觸レテ、凝リタル者ヲ、露トイフ、露又寒ニ遇ヒテ、冰リタル者ヲ、霜トイフ、水氣ノ、空際ニ在リテ、熱ヲ失ヒ、雲トナリ、未タ滴リ落ちザル中ニ、凝リタル者ヲ、雪トイフ、是水氣ノ、未ダ雨トナラザルニ、俄ニ熱ヲ失ヒタル者ニシテ、既ニ雨トナリタル後ニ、凝リテ降ル者ハ、即霰ナリ、

第十三

太陽ノ熱、河海ノ水ヲ蒸シテ、空中ニ騰ラシムルニ、夏ハ殊ニ多クシテ、其凝ルコト速ナラズ、故ニ、空際ニ集リテ、雲トナリ雨トナル、是夏ノ雲雨多キ所以ナリ、若シ此水氣、尚地ニ近キ處ニ在リテ、大氣其熱ヲ失フニ因リ、凝リテ、細分子トナル時ハ、霧ト爲ル、故ニ、霧ハ多ク、沮洳・及・水邊ヨリ生ズルナリ、

水氣ノ、多ク蒸騰シテ、太陽ノ光ニ、映ズル時ハ、虹トナル、虹ニハ其色七ツアリ、上ハ赤色ニシテ、次ハ柑色トス、黄色コレニ次ギ、綠色又コレニ次ク、次ハ青色、次ハ紺色、次ハ紫色ナリ、

圖ノ煉溜蒸



直線曲線ノ別ナク、二線相並ビデ、其間ノ距離、始終同ジ度ニアルヲ、並行線トイフ、

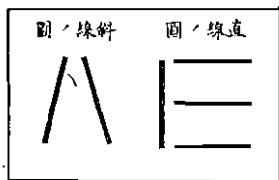
線中ノ各點、位置ヲ同ジクセズシテ、各曲リタルヲ、曲線トイフ、

線、即、鉛垂線ノ位置ナリ、地平線ニモアラズ、縦線ニモアラザル正直線ヲ、斜線トイフ、

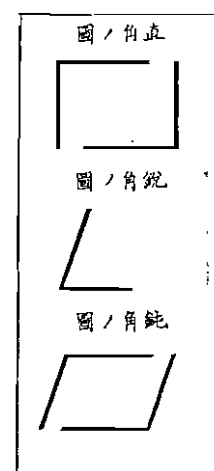
一直線、各其向キヲ異ニシテ、種々ニ連續スルヲ、折線トイフ、

線ニ、數個ノ種類アリ、地面ト並ビタルヲ、地平線トイフ、モシ正直ナル棒ヲ、水面ニ浮ブルトキハ、此棒ノ向フ所即地平線ノ位置ナリ

第十六



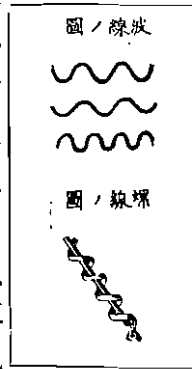
ニシテ、九十度以上ノ、角度ナリ、方形ハ、四角皆九十度ノ角度アル面ナリ、三角ハ、銳角ヨリ、成リタル面ニシテ、五角・六角等ハ、鈍角ヨリ、成リ



直角ヨリ尖リタル者ニシテ、九十度以下ノ、角度ナリ、鈍角ハ直



曲線ニ、數種アリ、波ノ運動スルガ如ク、上下ニ凸凹スルヲ、波線トイヒ、螺旋狀ニ卷キタルヲ、螺旋線トイフ、二線以上ノ、互ニ會合スル處ニ、生ズル角度ニ、三種アリ、直角・銳角・鈍角ナリ、



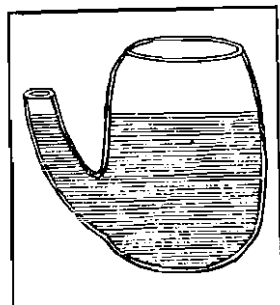
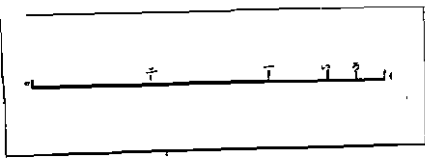
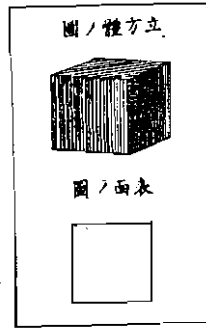
又別ニ、符ヲ施シ、ヨリニ至ルマデヲ、五分トス、即一寸ヲ二分セル、其一ナリ、又ヨリニ、至ルマデハ、一寸ヲ、四分セル、其一ニシテ、即二分五釐ナリ、分十ヲ、一寸トシ、寸十ヲ一尺トス、コノ長サアル、直條ヲ造リテ、物ノ長・厚・廣ヲ、度ル具トス、コレヲ尺度ト云フ、

總テ、物體ノ容積ヲ度ルニハ、此具ヲ至用トス、物體ノ容積中、地上ヨリ直立スル向キヲ、厚トイヒ、又高トイフ、地上ト並行スル向キヲ、長トイヒ、又廣トイフ、但、長ハ

較長キ方ニシテ、廣ハ較短キ方ヲイフナリ、長・廣・厚アルモノヲ、立方體トイフ、表面ハ、外方ニ顯レタル部分ヲイフ、床ハ人ノ踏ム處ヲ、表面トシ、机ハ、書ヲ載スル處ヲ、表面トス、

表面ハ、長ト廣トアリテ、厚ナルモノ無シト雖、物體ニハ、皆長廣厚アリ、表面ノ中、若干ノ寸法ヲ示ストキハ、コレヲ面積トイフ、

點ハ、全ク想像ノモノニテ、長廣共ニ無シ、點ノ集リ續キタルモノヲ、線トイフ、故ニ線ハ、只長ノミニシテ、數條ヲ聚ムト雖、厚廣ヲナサズ、此ノ如キ線ヲ、想像線トイフ、又糸ノ如キ、實體アルヲ、眞線ト云フ、



第十五

愛ニ、ヨリ、回ニ達シタル、直線アリ、此線ヲ、三個ノ同ジ部分ニ分チ、回ノ、符ヲ施シテ、ヨリニ至ルマデヲ、三寸トシ、ヨリニ、至ルマデヲ、一寸トシ、ヨリニ、至ルマデヲ、一寸トシ、ヨリニ、至ルマデヲ、一寸トス、

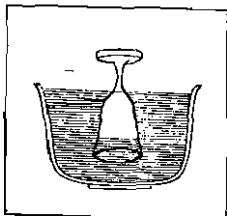
烟ノ類、是ナリ、

第十九

凡テ、物體ノ性ニ二アリ、通有性、特有性トイフ、其通有性ヲ分チテ、十一種トス、碍性・容性・形狀・可分性・氣孔性・無盡性・慣性・運動性・引力性・壓搾性・膨脹性はナリ、モシ物此性ノ、一ヲ缺クトキハ、其固有ノ體ヲ、保ツコト、能ハザルモノナリ、碍性ハ、一定ノ所ヲ占メテ、他物ノ其所ニ入ルコトヲ許サザル、性ヲ云フ、

今空氣ヲ滿タシメタル壺ヲ、倒ニシテ、水中ニ入ル、ニ、壺中ニ、水ノ入ルコト能ハザルハ、空氣其中ニ滿チタルユエナリ、コレヲ、空氣ノ碍性トイフ、

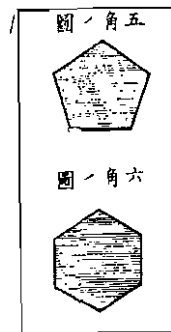
又二枚ノ板ヲ合ハスニ方リテ、中間ニ、一小石ヲ夾ムトキハ、此板互ニ密著スルコト能ハズ、是小石ノ碍性ナリ、然



レドモ、一升ノ食鹽ヲ、一升ノ水中ニ入レテ、溶解スル時、此水二升トナルコトナクシテ、食鹽ト、水ト合セルニ、似タリト雖、其實ハ、合セルニアラズ、食鹽皆溶解シテ、水中ノ分子間ノ、空隙ニ入レルナリ、コレヲ氣孔性トイフ、譬ヘバ水ヲ砂ニ灌ゲバ、其水忽砂中ニ、入ルガ如シ、是水ト、砂ト合スルニアラズ、水皆砂ノ

タル面ナリ、

表面ニ、三角・四角・五角・六角等アリ、又其角度ニ、直角ナル者アリ、銳角・鈍角ナル者アリ、或ハ諸角皆同ジキ者アリ、



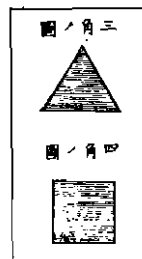
或ハ諸角各異ナル者アリ、皆同ジキヲ、正角トイヒ、各異ナルヲ、不等角トイフ、

二線以上ノ、曲線ヲ集合セル角ヲ、弧角トイヒ、其三角ナルモノヲ、弧三角トイフ、

第十七



物體ハ、長廣厚ノ、三ノ者ヲ備ヘテ、人ノ耳・目・口・鼻、及・肌ニ觸レ、知覺スベキモノ、皆是ナリ此物體ハ、本ト數千ノ小分子ヨリ成リ、而シテ其分子ノ量、各同ジカラズ、故ニ、其容積同ジト雖、含ム所ノ分子ニハ、各多少アリ、譬ヘバ、鉛ノ分子ハ、水ノ九倍ニシテ、黄金ノ分子ハ、水ノ十九倍ナルガ如シ、カク同ジ容積中ニ、含ム所ノ分子ニ、多少ノ差アルニ由リテ、物質ニモ、亦疎密輕重ノ異ナルアリ、分子ヲ含ムコト、多キモノハ、



其質密ニシテ、其量重ク、分子ヲ含ムコト、少キモノハ、其質疎ニシテ、其量輕シ、

此分子ニ多少アルハ、即物ノ質ニシテ、分子互ニ相引ク力ニ、強弱アルニ、由リテナリ、

第十八

物體、一種ノ分子ヨリ、成リタルモノヲ、單成物トイフ、鉛・黄金・銅・錫・銀・鐵等ノ類、是ナリ、二種以上ノ分子ヨリ、成リタルモノヲ、合成物トイフ水・空氣・鹽・砂糖ノ類、是ナリ、

物體ニ、三種アリ、凝體・流體・氣狀體ナリ、凝體ハ、其分子互ニ固著シ、全體ヲ動カスニアラザレバ、其一分子ヲ動カスコト、能ハズシテ、通常ノ氣候ニハ其形ヲ變ゼサルモノヲイフ、

木・石・金類、是ナリ、流體ハ、體中ノ分子、互ニ相引クトイヘドモ、其一分子ヲ動カシ得ルコト、易クシテ、通常ノ氣候ニモ、流動スルモノヲ云フ、水・酒・油ノ類、是ナリ、氣狀體ハ體中ノ分子、相引クノ力、甚微ニシテ、浮動スル者ヲイフ、空氣・



空隙ニ入レルナリ、此空隙ノ大ニシテ、且多キヲ、稀疎ノ體トイヒ、小ニシテ、且少キヲ、稠密ノ體トイフ、稠密ノ體ハ、體中ノ分子ノ、密著シタルモノニシテ、凝定セル、容積中ニ含ミタル、分子ノ分量ヲ示ス、稀疎ハ、稠密ノ反ニシテ、體中ニ含ミタル分子ヲ、増加スルコトナクシテ、容積ヲ擴張シタルモノヲイフ、

容積ハ、填充性、又容性ト稱フ、物體ノ長廣厚ニシテ、體アレバ、必容積アリ、

形狀ハ、定形性又形性ト稱フ、物體ノ方圓平ノ類ニシテ、容積アレバ、必形狀アリ、故ニ形狀ハ、容積ノ定限ヲ見ルベキ者ナリ、

可分性ハ、物體ノ分析スベキ性ニシテ、萬物皆碎キテ、粉トナスベク、切りテ片トナスベキ、性アルヲイフ、

今三分ノ量アル、黄金ヲ槌チ展バセバ、一寸四方ノ金箔、七十枚ヲ得ベクシテ、此箔一枚ヲ、横截スレバ、二百個ノ線ヲ得ベシ、又此線ヲ、切斷シテ、二百個ノ、小片トセバ、此一小片ハ、三分ノ量ナル黄金ノ二百八十萬分ノ一ナリ、然レドモ、猶人眼ヲ以テ黄金ナルコトヲ、見得ベシ、又一片ノ墨塊ヲ、多量ノ水中ニ、溶解スレバ、此水總テ、墨色ニ變ズルハ、コレ墨塊ノ分子ノ、散ジタルモノナリ、又水銀少許ヲ、鉢ニ入レテ、コレヲ綿密ニ搗ルトキハ、水銀散ジテ、鉢ノ裏面ニ粘著シ、只青色ノ物トナル、然レド

其著スルコト、甚密ニシテ、凝聚力ノ、強キモノハ、諸金
堅硬性トイフ、
石ノ類、皆此力ヲ有ス、金剛石ノ如キ、其最ナリ、コレヲ
凝聚力ノ強クシテ、他物分子間ニ入り難キ、堅牢ナル、金
アリ、殊ニ白金ヲ以テ最トス、故ニ白金ノ線ハ、蜘蛛網ヨ
リ、細ク引キ延バスコトヲ得ベシ、
凝聚ハ、物體ノ分子互ニ相聚ルカヲ云フ、其聚ルノ疎密ニ
因リテ、硬脆ノ別アリ、輕重ノ別アリ、
應抽ハ、引キテ線ト爲スベキ性ニシテ、諸金屬ハ、皆此性
ハ、多ク此性ヲ備フ、硝子等コレナリ、
碎脆ハ、受展ノ反ニシテ、破碎スベキ性ナリ、堅硬ノ物體
ハ、多ク此性ヲ備フ、硝子等コレナリ、

放ツトキハ、物體再以前ノ容積ニ、復スルノ力ヲイフ、今
弓ヲ曲ゲテ後、コレヲ放ツニ、又前ノ形ニ復スルハ、弓ノ
弾力ナリ、彈力膠ハ、此力ヲ備フルコト、甚多ク、又氣類
ハ、彈力ヲ備フルコト、最強シトス、
象牙ノ彈力ハ、甚大ニシテ、コレヲ壓縮シタル後、再前形
ニ復スルノ力、殆ど彈力ニ費ヤシ、力ニ同ジ、
受展性ハ、鎚鍛或ハ壓搾シテ、コレヲ展ブレバ、容積ノ擴張
スル性ヲイフ、
黃金・銀・鐵・銅等ノ諸金屬、皆此性ヲ有ス、其中ニ黃金
ヲ最トス、然レドモ、鐵屬盡ク此性質ヲ、備フルニ非ルナ
リ、

榊原芳野 校

屬中、鐵ヲ以テ第一トス、流動物ニモ亦此性アリ、但浮氣
體ハ此性ナク、却テ相反撥スルノ力アルノミ、故ニ特有ノ
一性トス、
又凝聚ノ致ス所トイヘドモ、^{シテ}鯨類ノ如ク屈曲スベクシテ、
毀壞シ難キヲ、柔軟性トイフ、
又異性ノ物ニシテ、相聚合スル者アリ、米糊ノ物ニ貼シ、
水漿ノ器物ニ著クガ如キ、是ヲ粘著性トイフ、

モ、顯微鏡ヲ以テ、コ
レヲ見レバ、尙水銀ノ
體ニシテ、粒々皆分明
ナリ、

顯微鏡ノ圖



其他香ノ、空中ニ、散
ズルモ、亦其體ノ分子ノ、空氣中ニ飛散セルナリ、
譬ヘバ、一個ノ麝香ヲ空氣中ニ置クニ、二十年ノ間、香ヲ
發ツトイヘドモ、其分量ヲ減ズルコト、極メテ少ナシ、是
麝香ノ可分性、他物ヨリ大ナレバナリ、
病毒ニモ、亦皆可分性アリテ、其分子飛散シ、他人ノ皮膚
ヨリ侵入ス、是傳染病ナリ、

無盡性ハ、物體ノ形狀・光色・及・性質、水火ノ爲ニ、變化
ストイヘドモ、元質ハ、滅盡スルコトナク、必存スルモノ
ヲ云フ、譬ヘバ、水ヲ煮テ蒸沸セシメ、或ハ日光ニ曝ラシ
テ乾カシムルトキ、其水散ジテ、氣狀トナリ、消滅ストイ
ヘドモ、必空氣中ニ浮遊シ、終ニ雲霧トナリ、雨雪トナリ
テ、地ニ落チ、川流ヲナスガ如シ、
薪炭ノ類モ亦燐燒ヲ受ケテ、消滅スルニ似タリト雖、其實
ハ、盡クルニアラズ、一部分ハ、烟・又水氣トナリテ、蒸
散シ、一部分ハ、灰・及・鹽トナリテ、後ニ留マルナリ、
凡テ物體ハ、水火ノ爲ニ、其形ヲ變ジ、在ル所ノ部分、悉
分析ストイヘドモ、其分量ハ減ズルコトナク、又其性質

ハ、絶テ變化スルコトナシ、コ
レヲ無盡性ト云フ、

物體ノ慣性トハ、或ハ止マリタ
ル、物體ヲ動かシ、或ハ動ケ
ル、物體ヲ止ムルトキ、遽ニ動
止セザルモノヲ、物體ノ慣性ト
イフ、凡テ他ヨリ、附加スル力
ナキトキハ、止マリタル物體、
自動クコト能ハズ、又動ケル物
體、自止マルコト能ハザルナリ、其他ヨリ附加スル力トイ
フハ、或ハ人馬コレヲ動かシ、或ハ地球ノ引力、コレヲ吸
收スルノ類ナリ、其他力ニ因リテ、動クベキ性ヲ、運動
性、又可動性ト稱フ、



引力性ハ、萬物互ニ、相引ク力ヲイフ、コレヲ大ニシテハ、
日・月・星辰・地球等ノ、空中ニ飄クガ如キ、小ニシテハ、
拋石・擲毬ノ、地面ニ引ル、ガ如キ、是ナリ、
百物總テ此力ナキハナシ、又コレヲ重力ト稱フ、

第二十

特有性ハ、前ト異ニシテ、此ニアリト雖、彼ニナク、特ニ
其物ニノミ有ル性ヲイフ、コレヲ分チテ、八種トス、所謂
粘著・堅硬・柔軟・彈力・受展・碎脆・應抽・凝聚ナリ、
彈力ハ、物體ノ容積ヲ壓縮シ、或ハ擴張セシメテ、コレヲ